

「山縣市男女共同参画に関する市民意識調査」のまとめ

実施方法

- ・ 調査対象：山州市内に住所を有する 18 歳以上 75 歳未満の市民
1,500 人
- ・ 抽出方法：住民基本台帳から無作為に抽出
- ・ 実施方法：郵送配布、郵送回収
- ・ 調査期間：平成 18 年 4 月 1 日から平成 18 年 4 月 21 日

配布回収状況

- ・ 実施配布数：1,491（配達不能数 9）
高富地域 901（配達不能数 6）
伊自良地域 176（配達不能数 1）
美山地域 423（配達不能数 2）
- ・ 回収数：510
- ・ 回収率：34.2%

《参考》山州市総合計画での回収率：44.3%

回答率（単位：%）は、小数点第二位を四捨五入したため、合計が 100%にならない場合があります。

1.【問1】から【問5】については、回答者の属性についての質問

回答率が本市の他調査より比較的低い割合になっている。

関心が低いことがうかがわれる。

女性の回答率が高く、回答者の年齢は市民全体の構成よりも若干高めとなっている。

こうした傾向は本市の他調査においても同様の傾向があり、回答率の高さが「男女共同参画」に対する関心度の高さを示すとは言えない。

平成17年10月1日現在の住民基本台帳の数値によると、抽出前の調査対象者の男女の内訳は、男性が48.9%、女性が51.1%であるのに対し、回答者の内訳は、男性が37.5%、女性が62.5%となっている。また、抽出前の調査対象者の平均年齢は、51.8歳（推定）であるのに対し、回答者平均年齢は、54.2歳（推定）となっている。

ちなみに、本市総合計画策定時の「市民まちづくり意向調査」においては、男性が41.2%、女性が58.8%で、抽出前の調査対象者の平均年齢は、54.0歳（推定）であった。

年齢構成をみると、青年層「10歳代から30歳代」が2割強を占め、壮年層「40歳代から50歳代」が4割、高齢層「60歳代から70歳代」が3割強を占めている。全体の6割弱が50歳以上となっている。

配偶関係では、「既婚」が全体の70%を超え、「未婚」の割合は13.8%となっている。

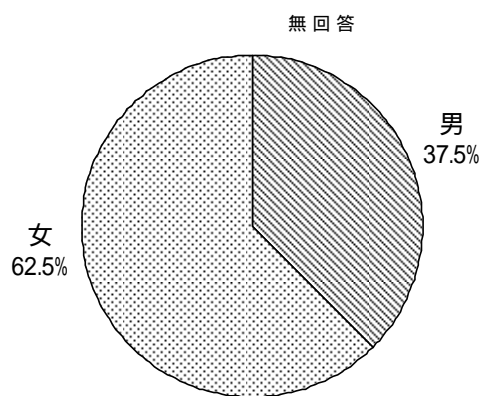
世帯状況では、「1世代世帯」と「2世代世帯」が全体の4分の3を占め、「1世代世帯」だけでも、4割を超えている。

職業では、全体でみると「会社員」が22.8%となり、次いで「専業主婦（夫）」が16.2%となっている。

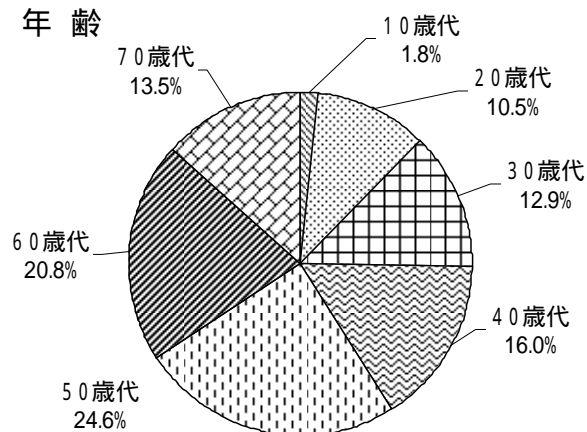
男性で多かったのは「会社員」が38.7%、次いで「無職」が20.4%となっている。また、「専業主婦（夫）」は0%となっている。年齢別でみると、「20歳代から50歳代」が「会社員」が50%を超え、「60歳代から70歳代」になると「無職」が多くなっている。

女性でみると、「専業主婦（夫）」が26.3%と高く、次いで「パート・アルバイト（非常勤職員を含む）」が21.1%となっている。年齢別でみると、「20歳代」では「会社員」が多いが、「30歳代」になると「専業主婦（夫）」が多くなっている。また、「40歳代から50歳代」になると「パート・アルバイト（非常勤を含む）」が多くなっている。

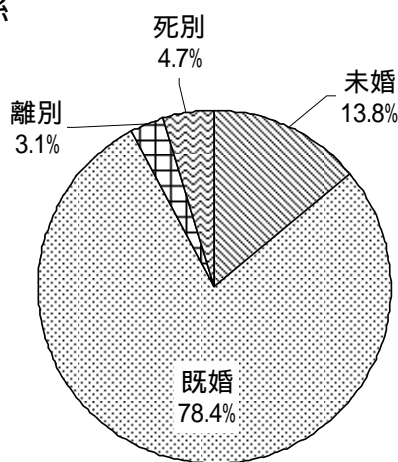
性別



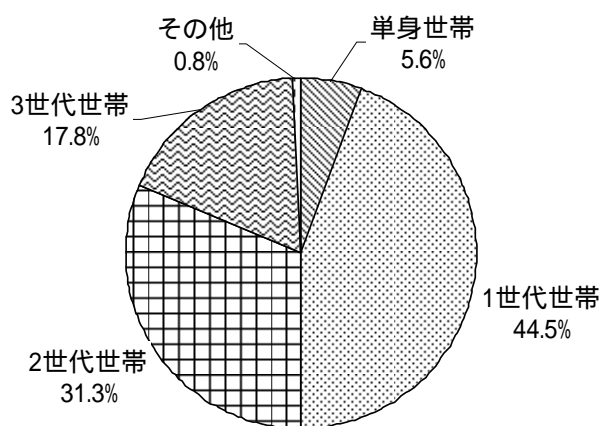
年齢



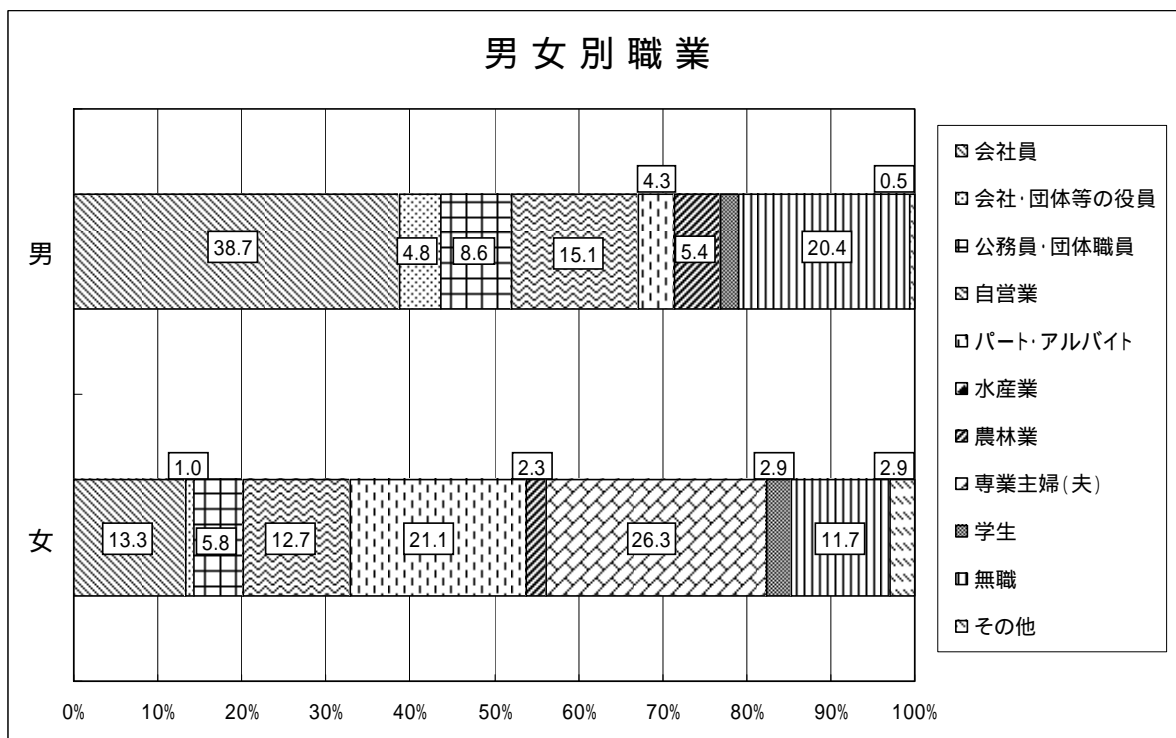
配偶関係



世帯状況



男女別職業



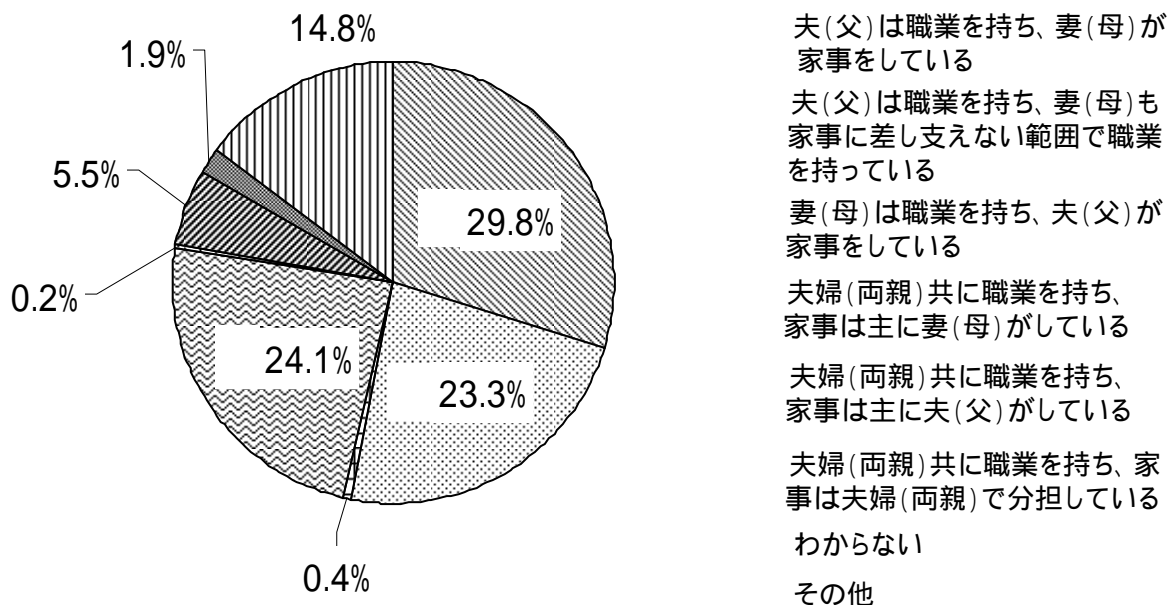
2 . 家庭生活における男女の役割について

女性就労の有無にかかわらず、女性の役割が大きくなっている。各種家事は、いずれ「夫婦同程度」を理想としながら、女性の役割が大きくなっている実情にある。特に、家事の内容では「子育て・介護関係」において、年代別では20歳代において、そのかい離が顕著となっている。子供のしつけは、30・40歳代では、「夫婦同程度」の割合が比較的高いものの、若年層では「女性の役割」が大きくなっている。

【問6】家庭での家事（育児を含む）の役割についての質問

全体で見ると「夫（父）は職業を持ち、妻（母）が家事をしている」が29.8%ともっとも多く、次いで「夫婦（両親）共に職業を持ち、家事は主に妻（母）がしている」が、24.1%となっている。また、「妻（母）は職業を持ち、夫（父）が家事をしている」及び「夫婦（両親）共に職業を持ち、家事は主に夫（父）がしている」については、1%にも達していない。また、「夫婦（両親）共に職業を持ち、家事は夫婦（両親）で分担している」については、5.5%にとどまっている。

家事の役割の実態

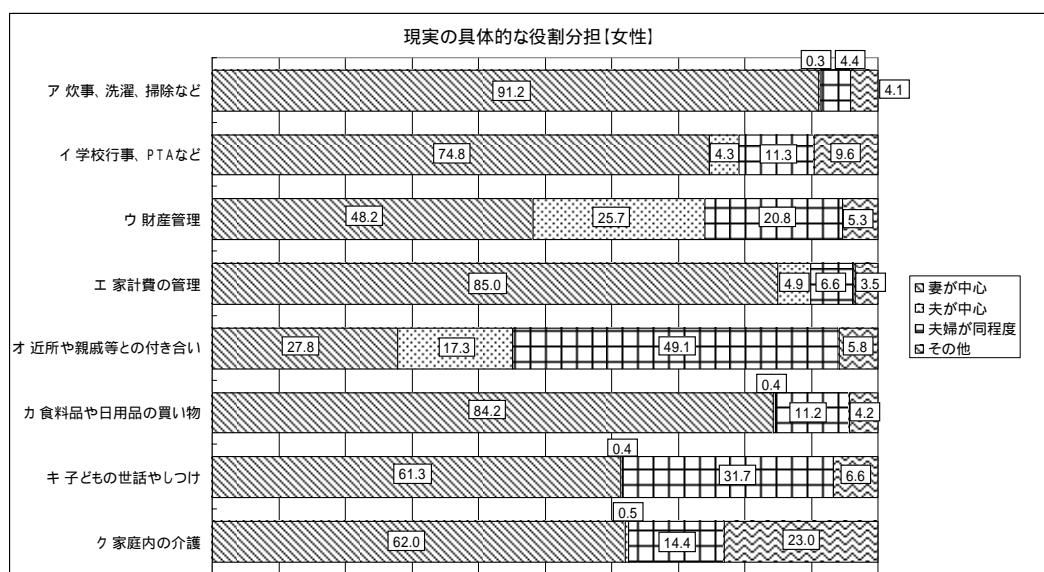
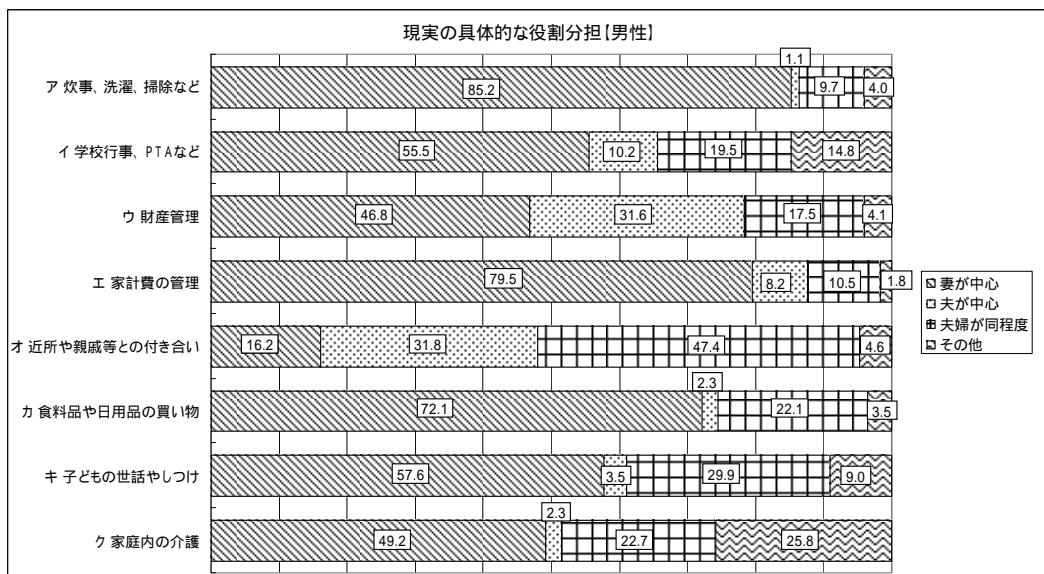


【問 7】現実の具体的な役割分担についての質問

- | | |
|-----------------|--------------|
| ア 炊事、洗濯、掃除など | イ 学校行事、PTAなど |
| ウ 財産管理 | エ 家計費の管理 |
| オ 近所や親戚などとの付き合い | カ 食料品や日用品の買物 |
| キ 子どもの世話やしつけ | ク 家庭内の介護 |

すべての項目のうち「オ 近所や親戚などとの付き合い」を除き、「妻（母）が中心」が一番多くなっている。「ア 炊事、洗濯、掃除など」については、8割を超えている。

また、男女で差が大きいのは「イ 学校行事、PTAなど」と「カ 食料品や日用品の買物」で、前者では19.3ポイント後者では12.1ポイント、女性が男性を上回っている。



同じ項目について、理想を尋ねた。

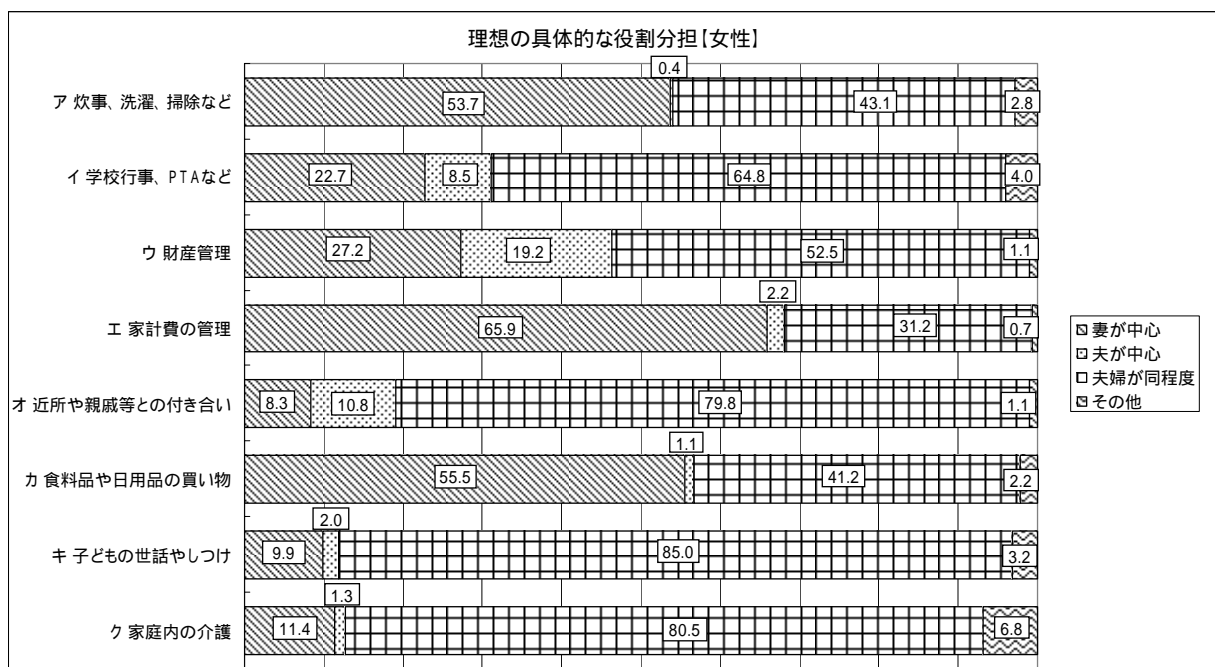
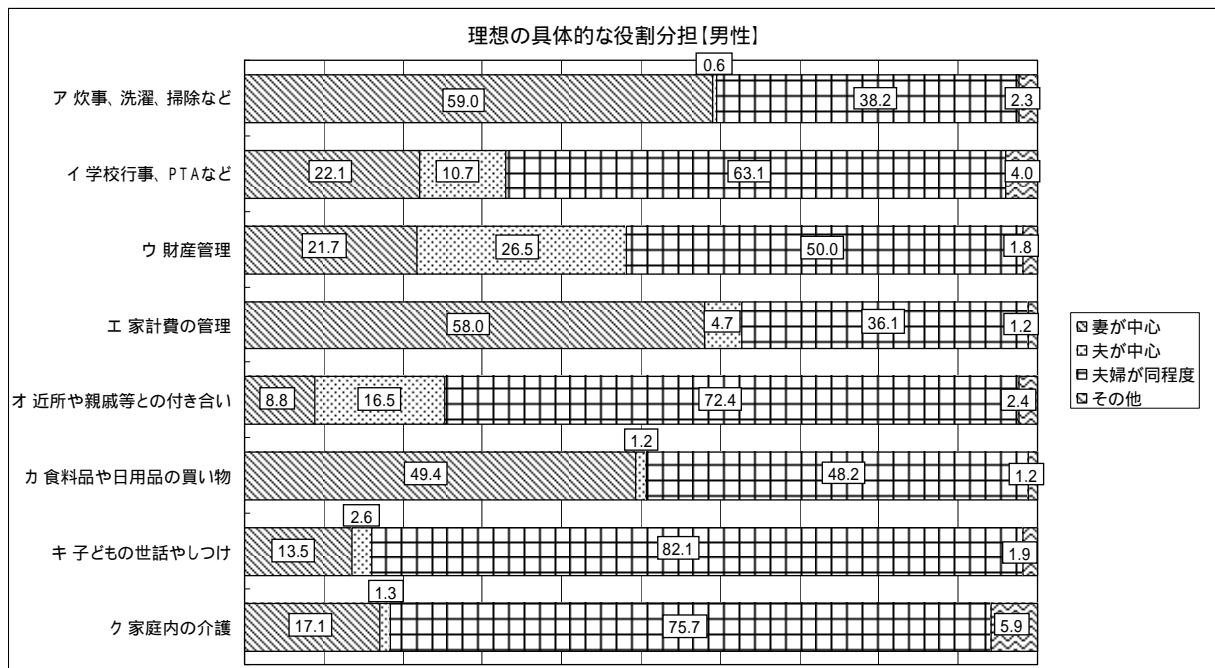
「ア 炊事、洗濯、掃除など」の男性については、「10歳代」以外の年代すべてで「妻（母）が中心」が最も多く、次いで「妻と夫（両親）が同程度」となっている。

女性については、「10歳代から30歳代」で「妻と夫（両親）が同程度」が一番多く、「40歳代から70歳代」については「妻（母）が中心」が多くなっている。男女によって違いはあるが、年代が若い方が「ア 炊事、洗濯、掃除など」については、夫婦同程度と考える傾向となっている。

「イ 学校行事、PTAなど」「ウ 財産管理」「オ 近所や親戚などの付き合い」「キ 子どもの世話やしつけ」「ク 家庭内の介護」については、「妻と夫（両親）が同程度」が一番多くなっている。

「エ 家計費の管理」については、男女とも50%を超える割合で「妻（母）が中心」となっている。

「カ 食料品や日用品の買物」については男女で多少の差はあるが、年齢が若い方が「妻と夫（両親）が同程度」の割合が高くなっている。



3 . 女性が働くことについて

子どもの成長後に女性は再就職する形態が望ましいとする考え方が最も多くなっている。

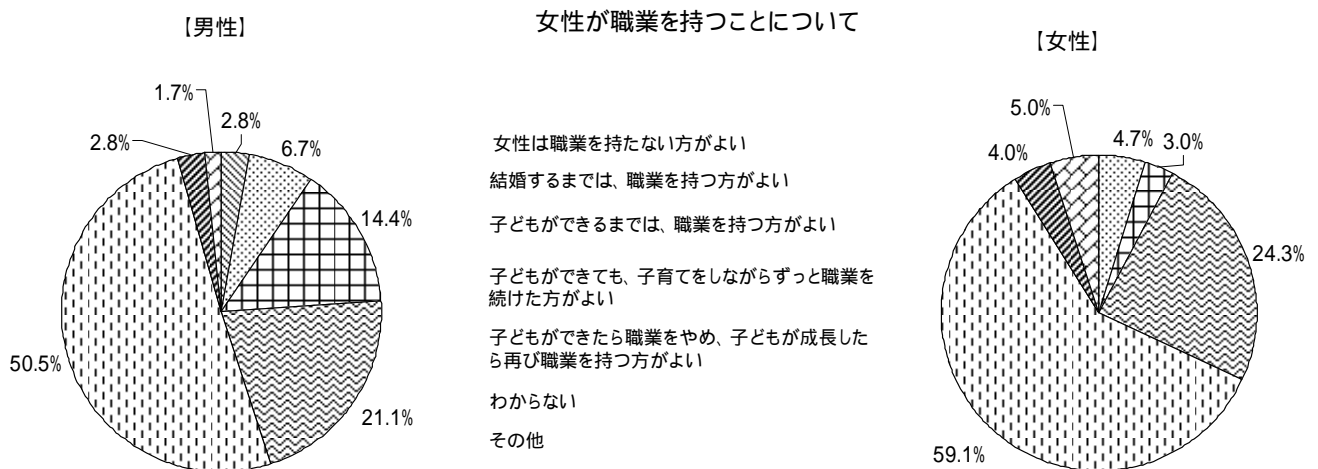
女性が働く利点は、経済的な豊かさが多いが、生きがいや視野の拡大とする考え方も多くなっている。一方、障害としては、制度の不充実、現実に働く時間がないなど、要因は多種であり、中には特に障害はないとする回答も若干あった。

性的嫌がらせでは、「言葉によるセクハラ」が4人に1人が、被害の当事者又は目撃者となっている。

【問8】女性が職業を持つことについてどう考えるかという質問

「子どもができて、子育てをしながらずっと職業を続けた方がよい」と「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」の割合が全体の7割を占める。「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」については、女性が59.1%であるのに対し、男性は50.6%と8.5ポイント低い割合となっている。

また「女性は職業を持たない方がよい」については、女性が0%であるのに対し、男性は2.8%となっている。



《参考》

女性が職業を持つことについて、本調査では「子どもができたなら離職し成長後再就職がよい」が最も多いが、内閣府が実施した平成16年11月の世論調査では「子育てしながら職業を続けた方がよい」が最も多く、この世論調査を時系列に見てみると、過去に実施された調査結果に近い傾向がある。

なお、岐阜県が平成17年7月に実施した調査では「子育てしながら職業を続けた方がよい」が最も多く、男性回答の場合に顕著である。また、同調査では、性的嫌がらせについても、本調査と同様な結果（4人に1人）となっている。

内閣府世論調査	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	その他	わからない
H4.11 調査	% 4.1	% 12.5	% 12.9	% 23.4	% 42.7	% 1.5	% 2.9
H7.7 調査	4.3	9.0	11.7	30.2	38.7	2.8	3.4
H12.2 調査	4.1	7.8	10.4	33.1	37.6	2.7	4.3
H14.7 調査	4.4	6.2	9.9	37.6	36.6	1.1	4.2
H16.11 調査	2.7	6.7	10.2	40.4	34.9	2.3	2.8

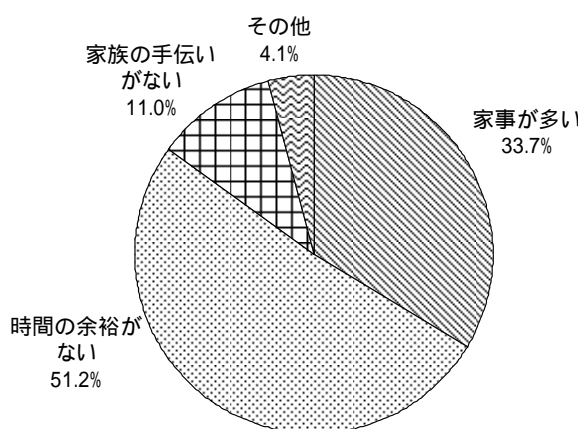
【問9】女性が職業を続ける上でどんな障害があるかという質問

A 家事

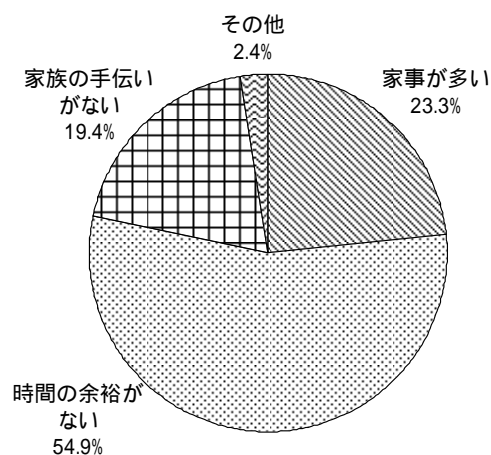
男女共に「時間に余裕がない」が一番多くなっている。

「家事が多い」については、男性が33.7%で女性が23.3%と10.4ポイントの差で男性が高くなっている。「家族が手伝ってくれない」については、男性が11.0%、女性が19.4%と女性の方が8.4ポイント高くなっている。

女性の就業の障害(家事)【男性】



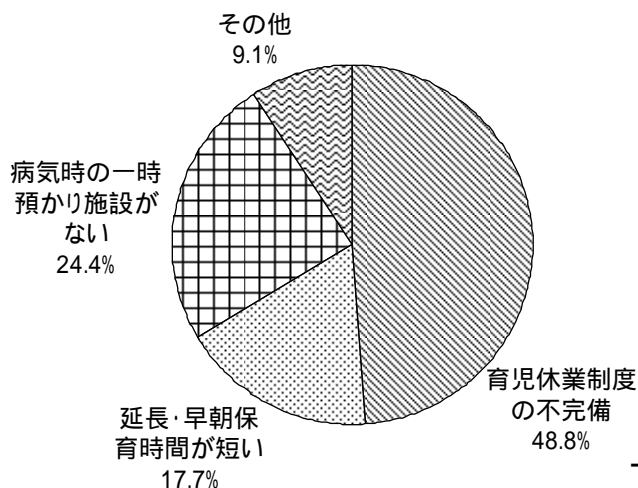
女性の就業の障害(家事)【女性】



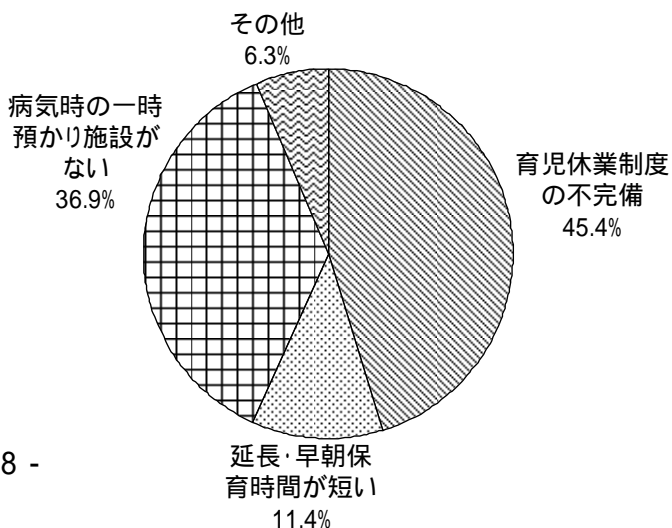
B 子育て

男女共に「育児休業制度が完備されていない」が4割を超えている。次いで「病気の時などの一時預かり施設がない」が2割を超えているが、女性の場合36.9%と男性より高い割合となっている。

女性就業の障害(子育て)【男性】



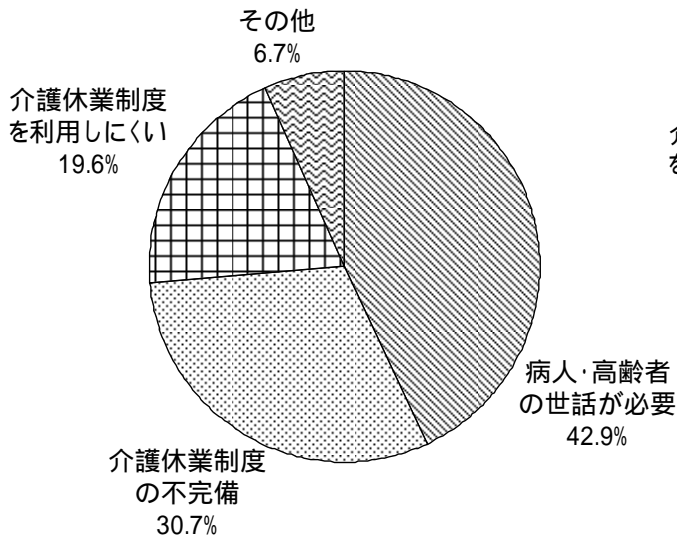
女性就業の障害(子育て)【女性】



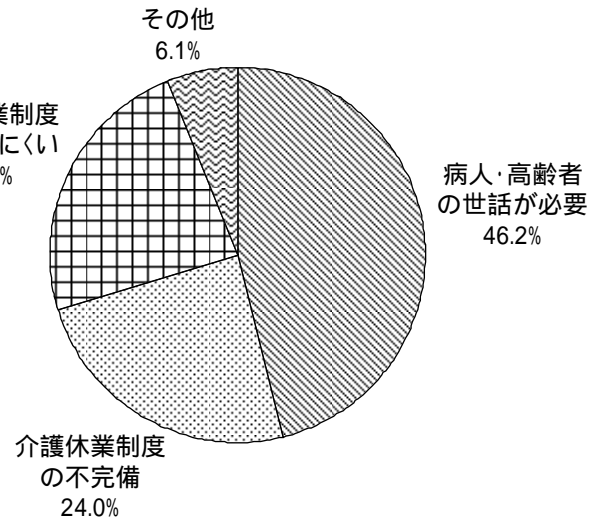
C 介護

男女共に「病人や高齢者の世話をしなければならない」が4割を超え、次いで「介護休業制度が完備されていない」が多くなっている。

女性就業の障害(介護)【男性】



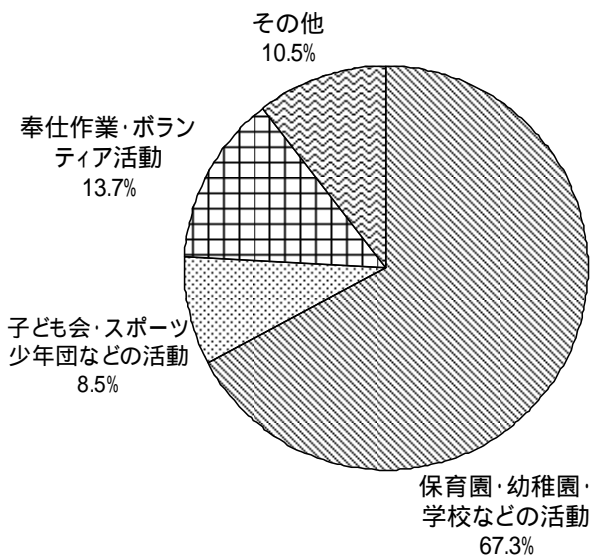
女性就業の障害(介護)【女性】



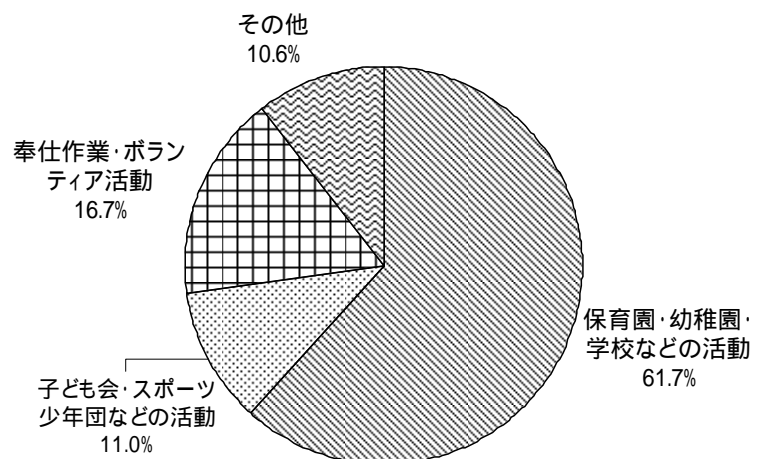
D 地域活動

男女共に「保育園・幼稚園・学校などの活動がある」が6割を超えている。次いで、「奉仕活動・ボランティア活動がある」が多くなっている。

女性就業の障害(地域活動)【男性】



女性就業の障害(地域活動)【女性】

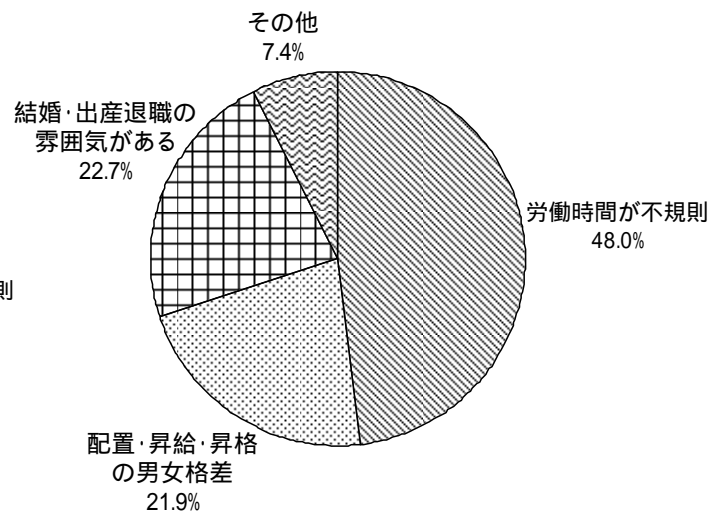
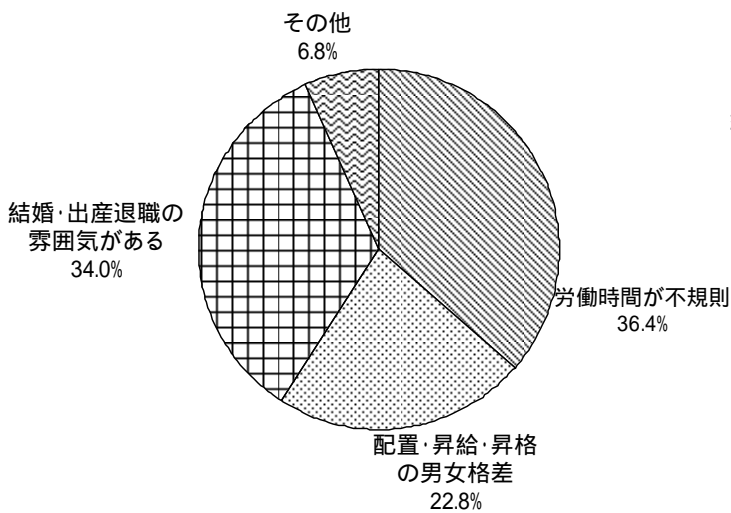


E 就労条件

男女共に「労働時間が不規則な場合がある」が3割を超えている。男女で比較すると、男性が36.4%、女性が48.0%と11.6ポイントの差で女性が高くなっている。次いで、「結婚・出産の際、退職しなければならない雰囲気がある」が20%を超えている。男女で比較すると、男性が34.0%、女性が22.7%と11.3ポイントの差で男性が高くなっている。

女性就業の障害(就労条件)【男性】

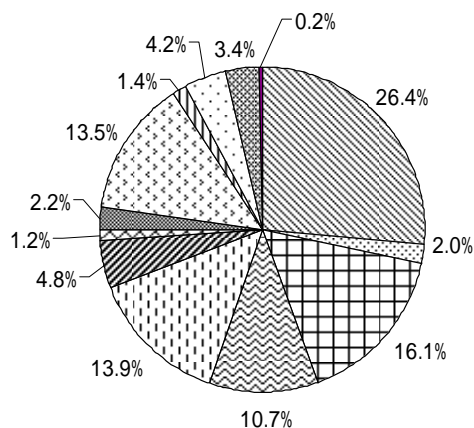
女性就業の障害(就労条件)【女性】



【問10】女性が職業を持つことでどのような利点があるかという質問

年代別、男女別でも「生計を担うことができ、経済的に豊になる」が20%を超え、次いで「生きがいを持つことができる」「自分自身が成長し、広い視野で物事を見られるようになる」が15%程度となっている。

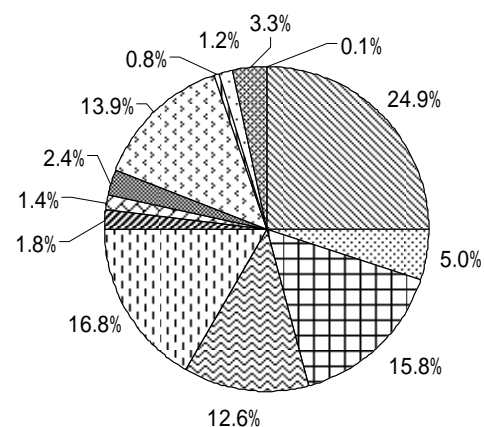
【男性】



女性が職業を持つことについて

- 生計を担うことができ、経済的に豊になる
- 自立できる
- 生きがいを持つことができる
- 人間関係が広がる
- 自分自身が成長し、広い視野で物事を見られるようになる
- 夫や子供が家事を分担するようになる
- 家庭でも自分の意見をはっきりといえるようになる
- 家族や地域との人間関係がうまくいく
- 自分の持つ能力・技能・資格を生かすことができる
- 女性の地位を高めるのに役立つ
- 女性の社会参画が推進される
- 人として家庭や社会で認められる
- その他

【女性】

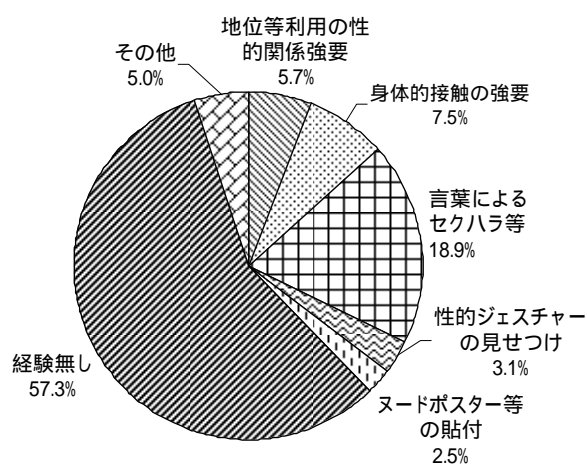


【問 1 1】セクシュアルハラスメントの被害経験及び目撃についての質問

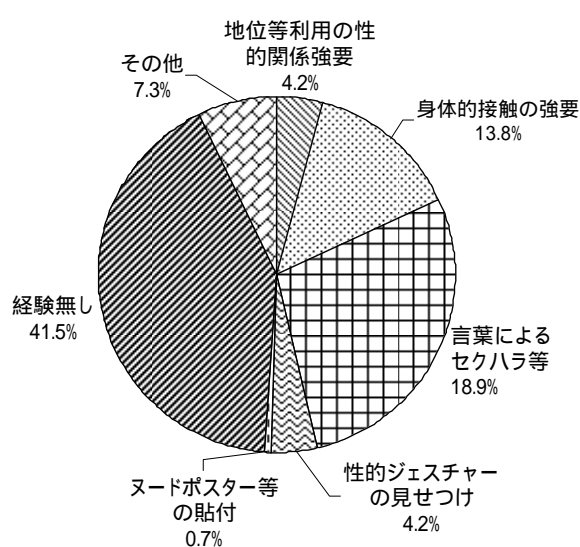
男女共に「経験もないし見たこともない」が一番多いが、男性が57.2%に対し女性は41.5%と15.7ポイントも低くなっている。次いで、「性的な冗談や質問、容姿、年齢について冷やかしの言葉をかけられる」が、25.1%となっており、男性が18.9%女性が28.4%と9.5ポイント高い割合になっている。

「触れる・抱きつくなどの身体的接触を迫られる」については、男性が7.5%、女性が13.8%と上回っている。

セクシュアルハラスメントの被害経験【男性】



セクシュアルハラスメントの被害経験【女性】



4 . 男女の地位の平等・人権について

学校教育の場では、比較的「平等」と感じている人が多いが、総じて「男性が優遇」と感じている人が多く、「政治の場」「社会通念」等では顕著となっている。

総じて、女性の方が男性より「男性が優遇」と感じており、内閣府実施の調査結果より本調査結果の方が「男性が優遇」と感じている回答が多くなっている。

DV等については、「言葉の暴力」を6人に1人が、被害の当事者又は目撃しており、この回答率は男性より女性の方がかなり高くなっている。

《参考》

内閣府が実施した平成16年11月の世論調査と比較し、本調査の方が総じて男性優遇という回答率が高くなっている。

内閣府世論調査 H16.11 調査	男性優遇	やや男性 優遇	平等	やや女性 優遇	女性優遇	わからない
家庭生活	% 10.8	% 38.5	% 39.9	% 6.7	% 1.4	% 2.6
職場	16.7	42.7	25.0	3.7	0.5	11.3
学校教育の場	2.3	11.4	66.8	3.1	0.4	16.0
政治の場	30.9	41.0	19.7	1.1	0.2	7.1
法律や制度の上	11.7	34.4	39.3	4.3	0.8	9.5
社会通念・慣習等	24.1	50.6	17.2	2.9	0.3	4.8

【問 1 2】男女の地位は現在どのようになっているかという質問

- | | | |
|------------------|------------|----------------|
| ア 家庭生活の中 | イ 職業の選択や職場 | ウ 学校教育の場 |
| エ 政治の場 | オ 法律上や制度上 | カ 社会通念・習慣・しきたり |
| キ 家業の後継者選び | ク 地域の中 | |
| ケ ボランティアなど団体活動の場 | | コ 社会全体 |

「ウ 学校教育の場」「ケ ボランティアなど団体活動の場」以外は、「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の割合が高くなっている。

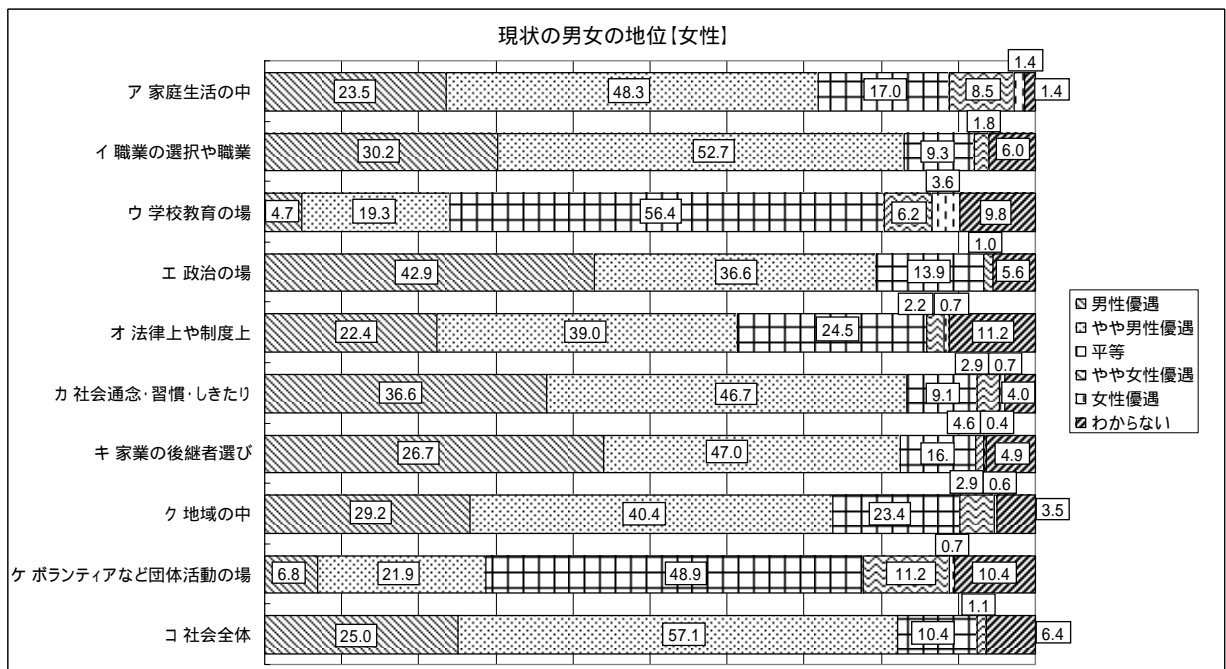
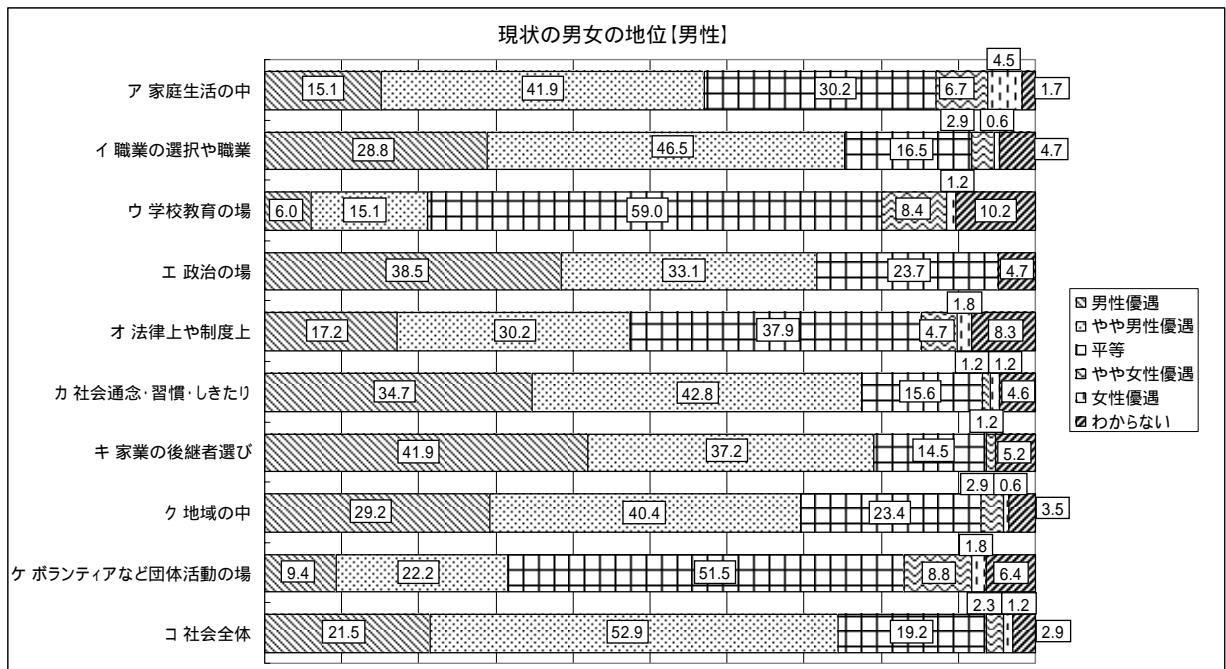
「オ 法律上や制度上」では、「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の割合が、50%を超えている。

また、「ア 家庭生活の中」「エ 政治の場」では、「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の割合が、60%を超えている。

「イ 職業の選択や職場」「カ 社会通念・習慣・しきたり」「キ 家業の高齢者選び」「コ 社会全体」については、「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の割合が、70%を超えている。

また、どの項目についても男性より女性の方が「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」と回答する割合が高くなっている。

男女間で「平等」と回答した人の差が一番大きかったのは「オ 法律上や制度上」で、男性37.9%であったのに対し女性が24.5%と、女性の方が13.4ポイントも低い割合となっている。

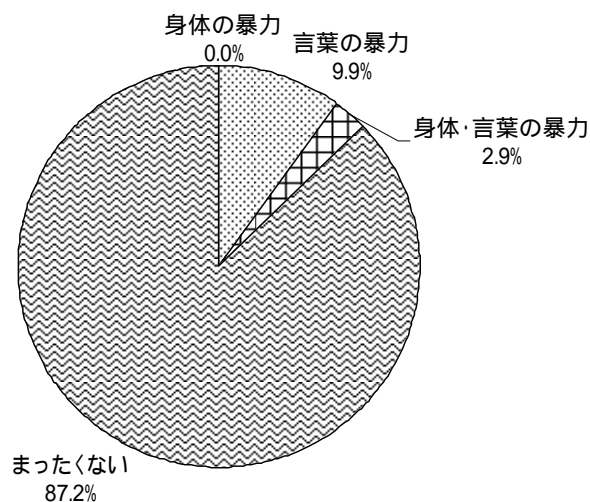


【問 1 3】家庭内でドメスティックバイオレンス（DV）の被害経験及び目撃についての質問

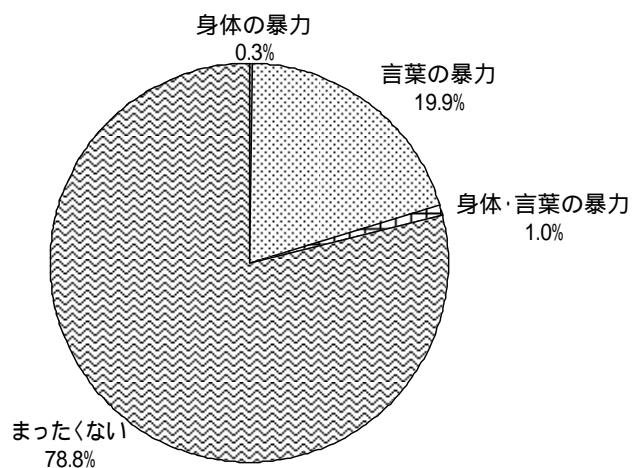
男女共に70%以上が「まったくない」と回答しているが、男性が87.2%に対し、女性は78.7%と男性に比べ女性が8.5ポイント程低い割合となっている。

次いで、多いのは「言葉の暴力・干渉などを受けた」になっており、男性では9.9%、女性は19.9%と女性の方が男性の倍の数字になっている。

DVの被害経験及び目撃経験【男性】



DVの被害経験及び目撃経験【女性】



5 . 子どもの教育・将来像について

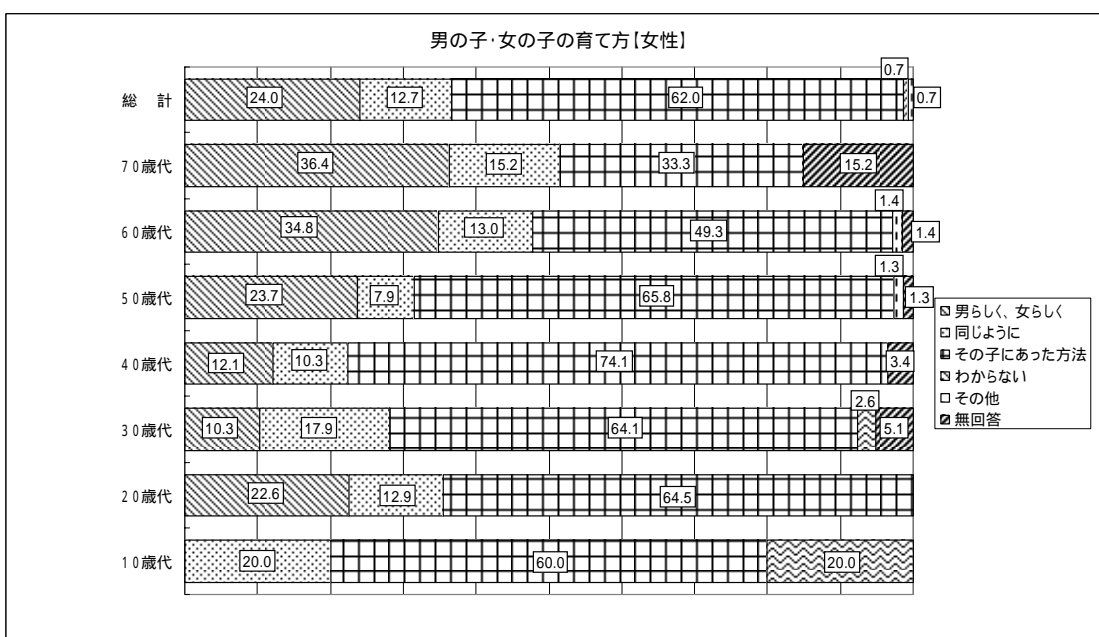
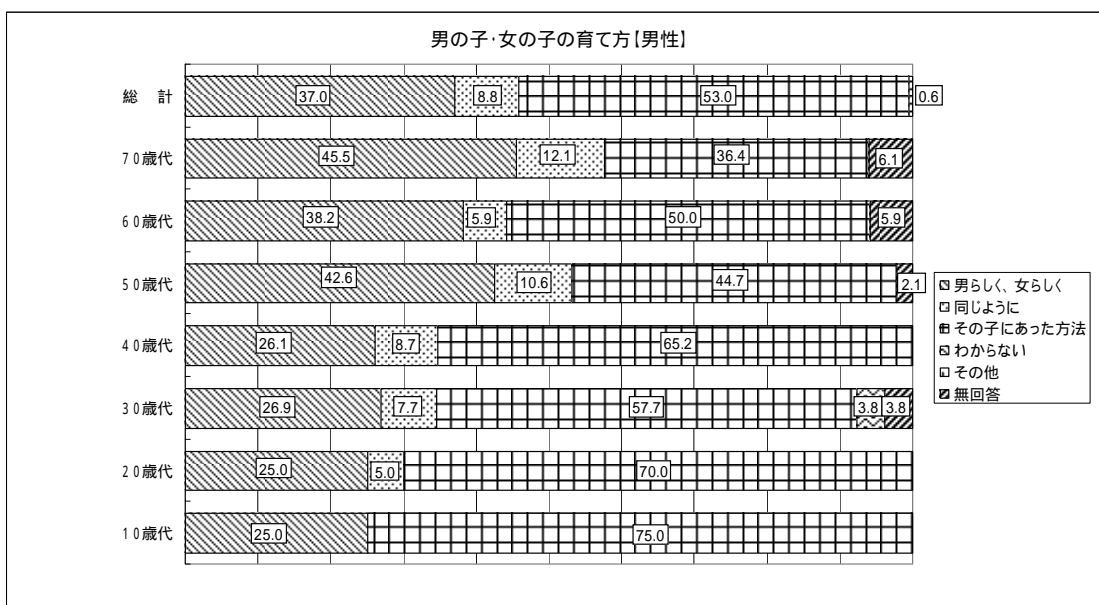
「その子にあった育て方がよい」とする考え方が最も多く、女性の回答はより顕著となっている。ただし、50歳代以上では「男らしく、女らしく」育てるべきとする考え方の比率が高くなる傾向となっている。

女の子より男の子に高等教育を望む傾向があり、女性の回答はより顕著となっている。

【問14】男の子、女の子の育て方についての質問

男女共に「その子に合った育て方がよい」の割合が50%を超えているが、男女で比較すると、男性が53.6%、女性が62.0%と、女性の方が高い割合となっている。また、男女とも「70歳代」のみ「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が一番高く、「その子に合った育て方がよい」の回答より上回っている。

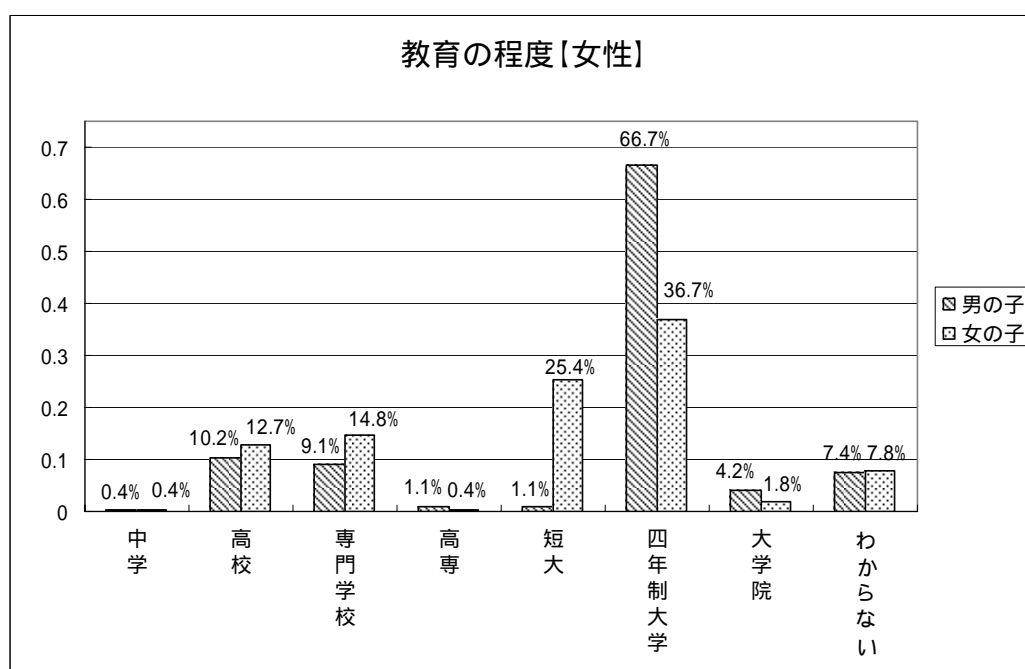
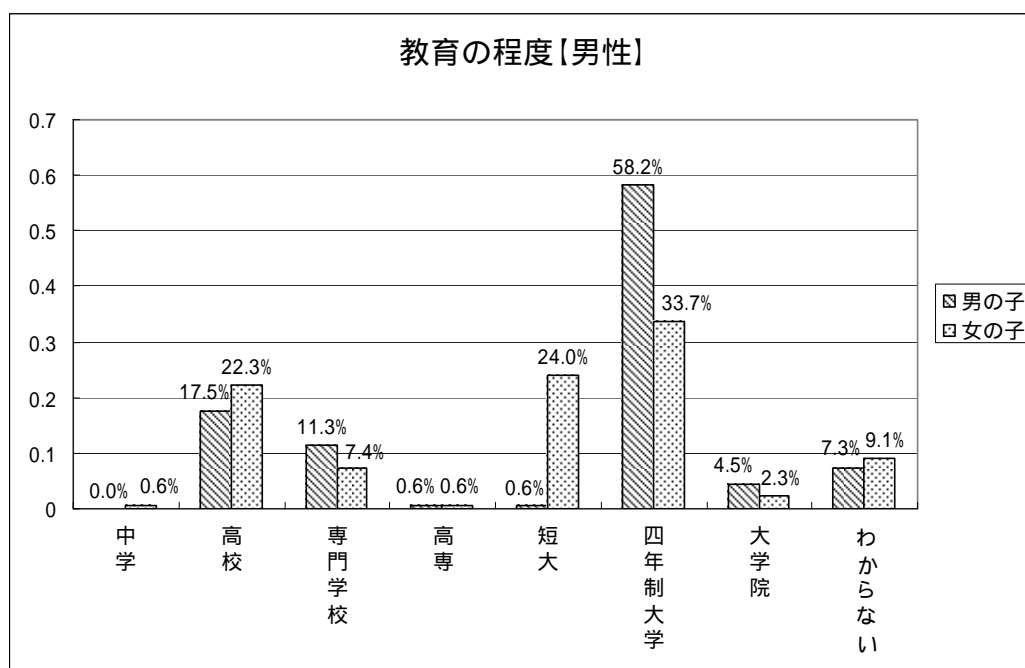
「その子に合った育て方がよい」の次に多いのが「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」で、男女の総計では29.0%となる。男女で比較すると、男性が37.0%、女性が24.0%と男性の方が13.0ポイント高くなっている。



【問 1 5】子どもにどの程度の教育を受けさせたいかという質問

男女共に「男の子」「女の子」それぞれ、「四年制大学」が一番高い割合となったが、それぞれ「女の子」の方が「男の子」に比べて25%程低い割合となっている。

また、「女の子」については「短大」が24.9%と「四年制大学」に次いで高い割合となっている。



6 . 少子・高齡社会について

未婚化・晩婚化の原因は「女性の経済力向上」「生きがい多様化」「必要性を感じない」といった様々な考え方に分散している。一方、出生率の低下については「経済負担の増加」が突出しており、特に30歳代以下で顕著となっている。

女性の介護負担は、若年層で「改善すべき」との考え方が突出して多いのに対し、高齡層に近づくにつれて「やむを得ない」「介護保険制度の利用」との考え方が増える傾向になっている。

希望する介護の相手は、男性は「配偶者」とする回答が最も多いが、女性は「配偶者」は男性の半分の割合で、「施設入所」等の割合が高くなっている。

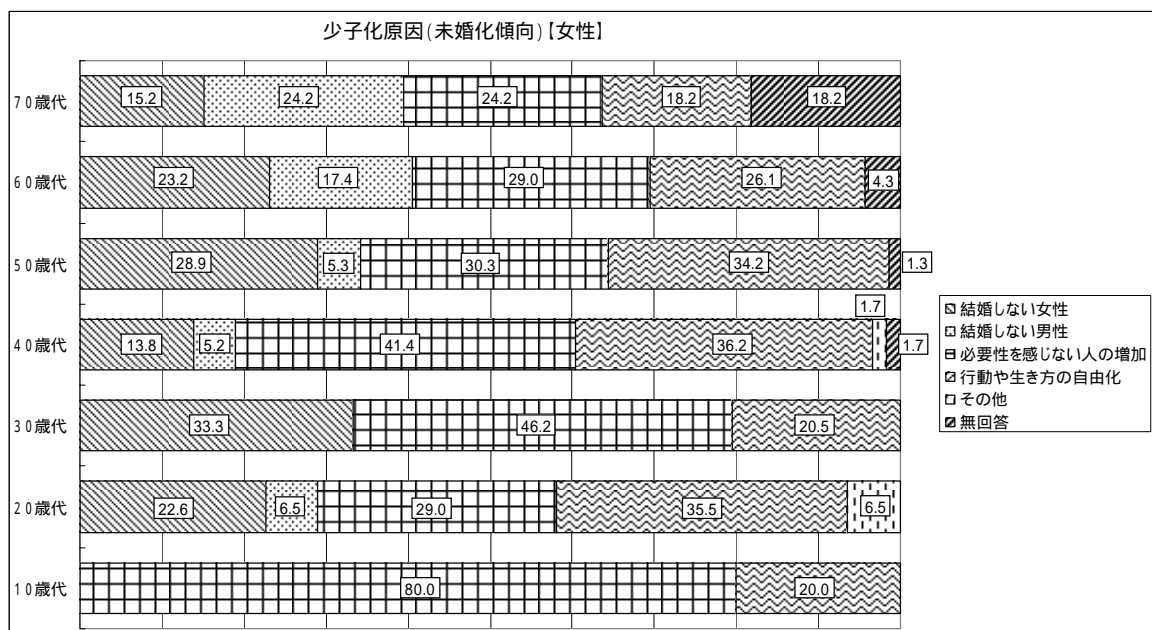
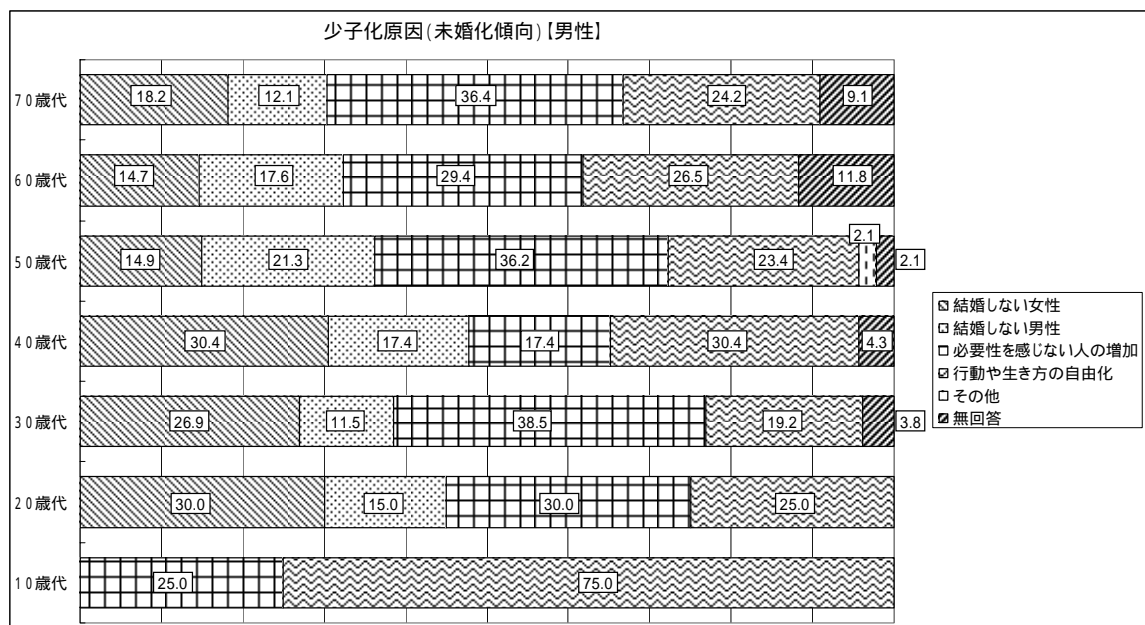
【問 1 6】少子化が進む原因について

A 未婚化傾向

全体では「必要性を感じない人が増えた」が最も多くなっている。

「結婚しない(できない)女性が増えた」の項目について、男性だけで見ると「20歳代から40歳代」で、ほかの年代より高い割合になっている。女性については、「30歳代」が38.5%と高い割合になっている。

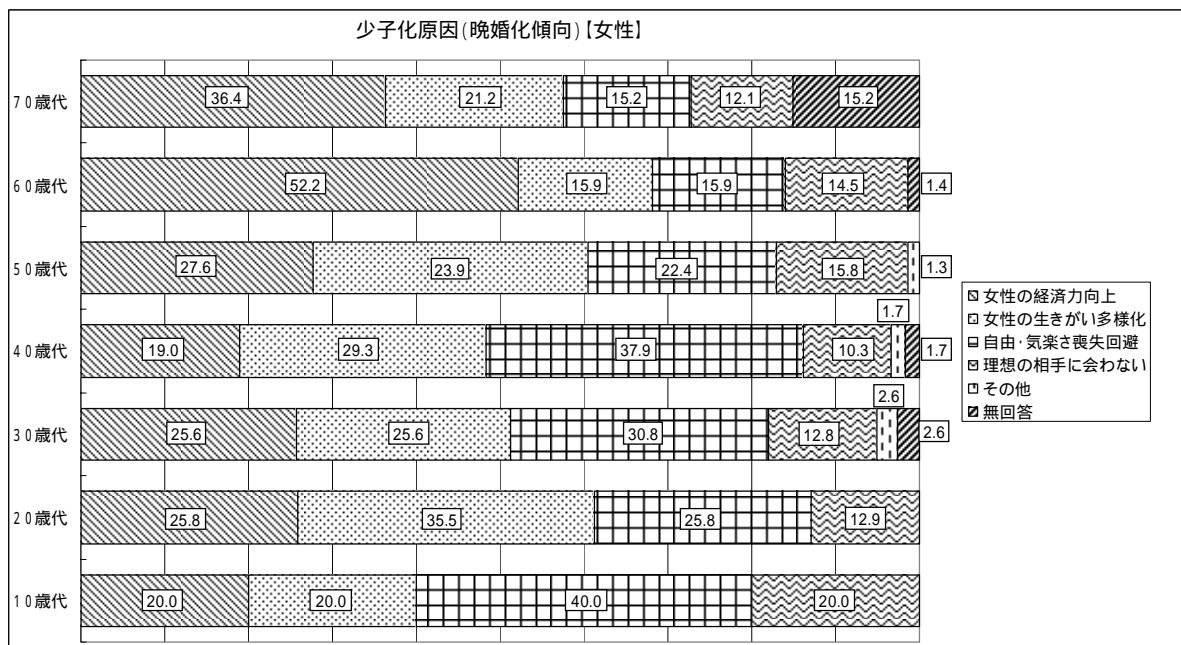
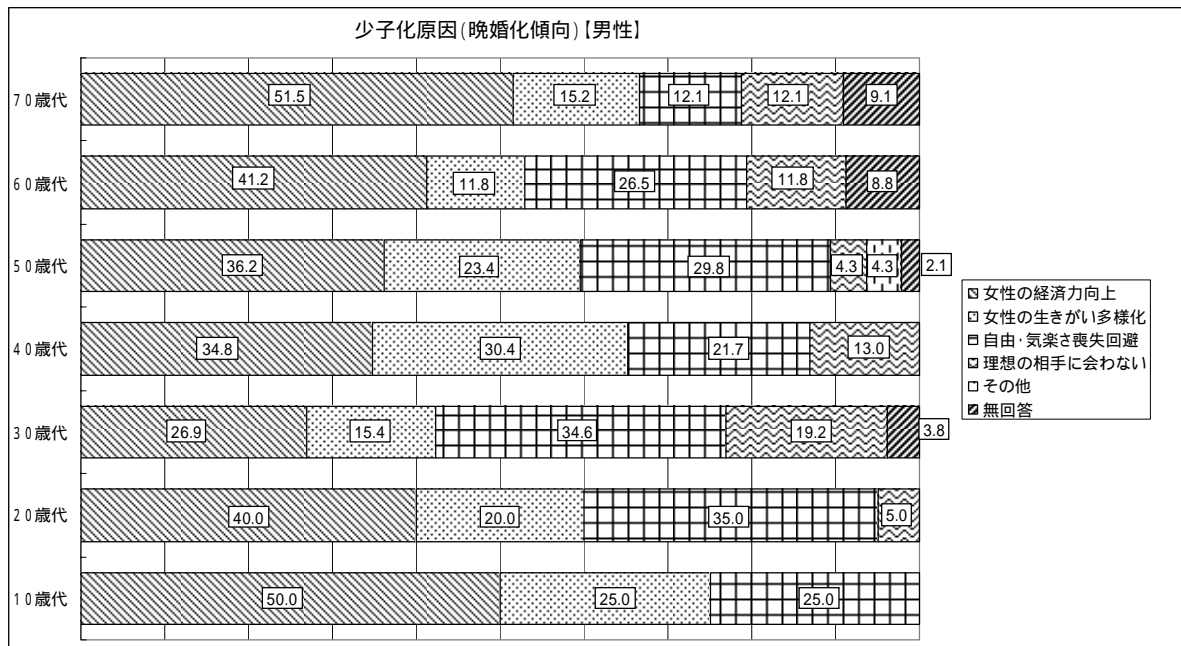
また、男女共「行動や生き方が自由である」が「必要性を感じない人が増えた」の次に多くなっている。



B 晩婚化傾向

最も多いのは男女共に「職業を持つ女性が増え、経済力が向上した」となっている。男性だけで見ると「30歳代」のみ「自由さ・気楽さを失いたくない」が34.6%と一番多くなっている。

女性を年代別でみてみると、「10歳代・30歳代・40歳代」が「自由さ・気楽さを失いたくない」が一番多く、「20歳代・50歳代」では「女性の生きがいが多様になった」が多くなっている。「60歳代・70歳代」については「職業を持つ女性が増え、経済力が向上した」が多くなっている。年代別にばらつきが目立っている。

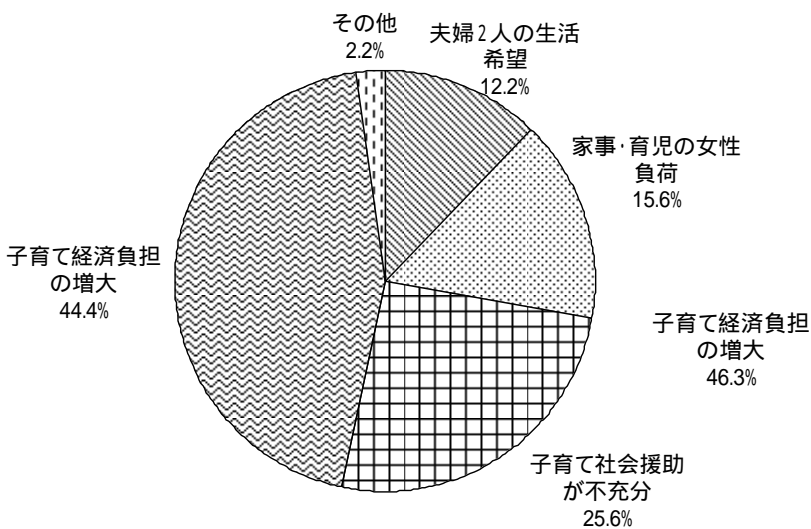


C 出生率の低下

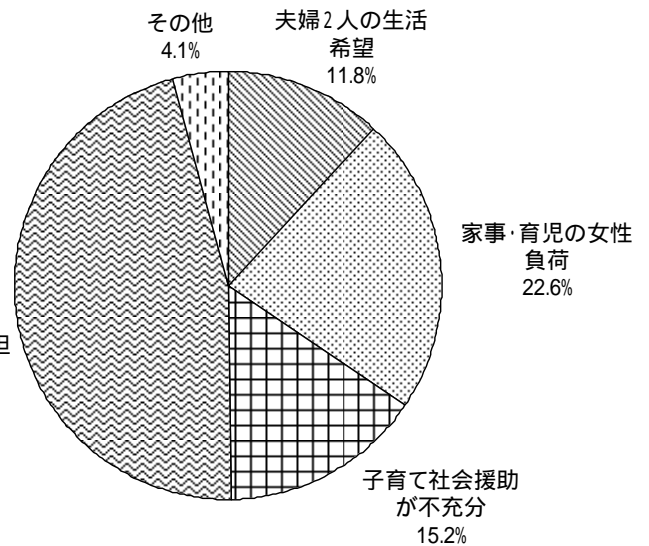
男女共に「子育ての経済負担の増大」が4割を超えている。男性だけで見ると、「子育てに対する社会的援助が不十分」が次いで多く25.6%となっているが、女性を見ると15.2%となっており、10.2ポイント低い割合になっている。

また、女性は「子育ての経済負担の増大」の次に「家事・育児の負担が女性にかかり過ぎる」が22.6%と多くなっている。男女で意識の違いが見受けられる。

少子化原因(出生率低下)【男性】



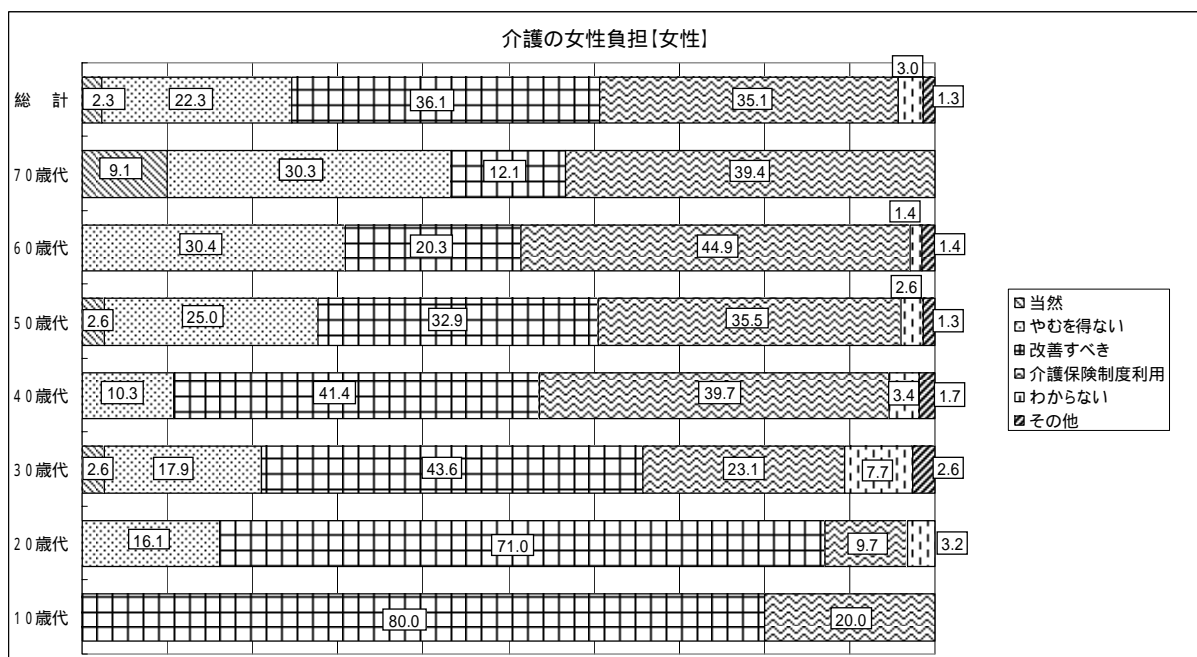
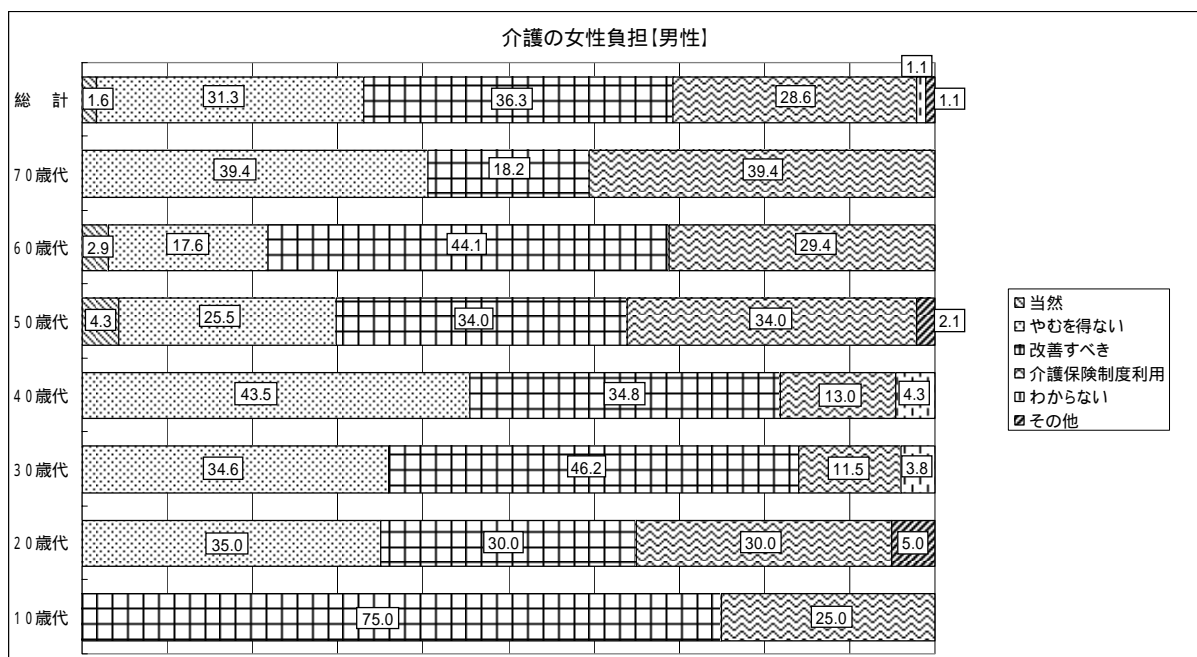
少子化原因(出生率低下)【女性】



【問 1 7】 家族との介護の女性負担についての質問

男性だけで見ると、「改善すべきである」の次に「問題ではあるがやむを得ない」が31.3%となっているのに対し、女性をみると、「改善すべきである」の次に「介護保険制度を利用する」が35.1%となっており、男女で意識の差があることがわかる。

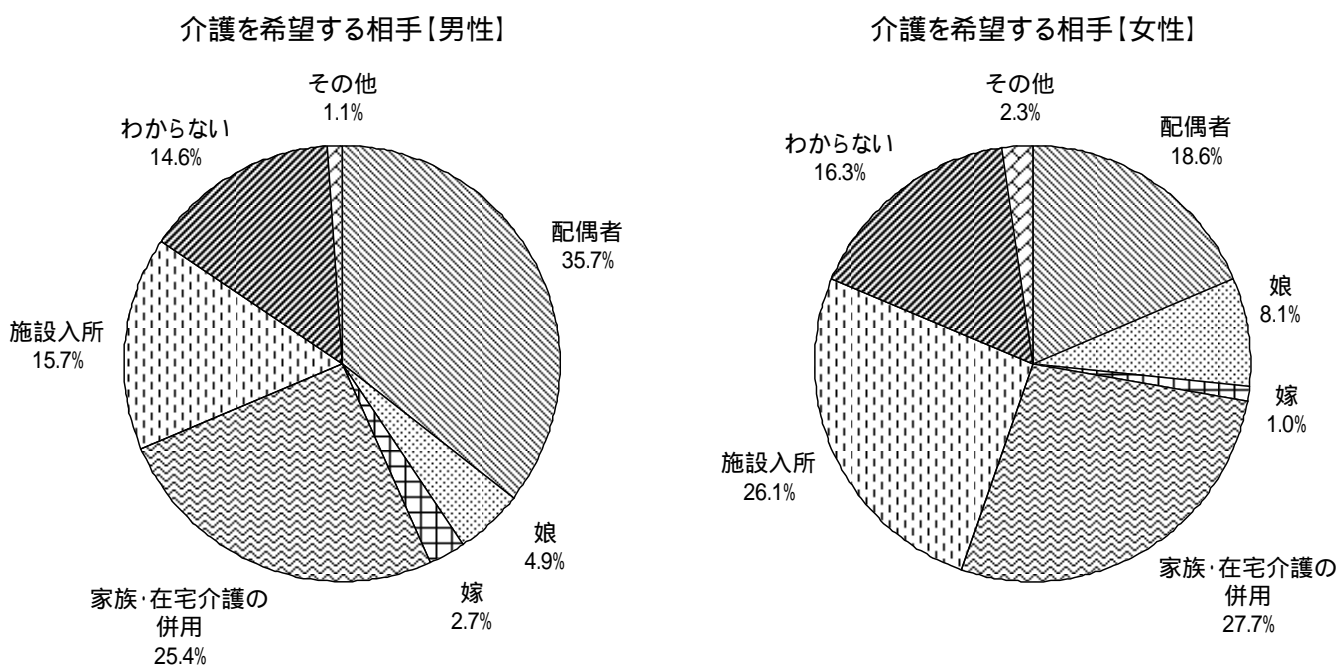
男女で大きな差になっているのは、「問題ではあるがやむを得ない」の項目となっている。特に目立つのは男性の「40歳代」で43.5%となっているが、女性では10.3%と30ポイント程の差になっている。



【問 1 8】自分自身の介護が必要になった場合、誰に世話してもらいたいかという質問

男性のみで見ると、「配偶者」が 35.7% で一番高い割合であるのに対し、女性は 18.6% と 17.1 ポイントも低い割合となっている。次いで、「家族と在宅介護を併用する」が 25.4% となっているが、女性では 27.7% と 2.3 ポイント低い割合になっている。

女性のみで見ると、「家族と在宅介護を併用する」が 27.7% と一番高い割合になっており、次いで「老人ホームなどの施設に入所する」が 26.1% となっている。「老人ホームなどの施設に入所する」の項目について男性は、15.7% と 10.4 ポイント女性より低い割合になっている。男女で意識の差がうかがわれる。



7 . 社会参加について

20歳代未満では大半が参加していないが、30歳代で保護者会活動へ参加し、40歳代以降は地域団体活動への参加もしている傾向がうかがわれる。

自治会長等の性別、活動名義、冠婚葬祭のあいさつについては、男女共に「男性にこだわらない」という考え方が最も多いが、葬式での役割分担の考え方は多種となっている。なお、「地域づくり等に男女の意見を取り入れるべき」という考え方は、性別・年齢にかかわらず圧倒的に多くなっている。

市議会議員、審議会委員登用については、すべての階層で「性別でなく資質等を優先すべき」という考え方が最も多く、「女性がもう少し増加した方がよい」という考え方が次いでいる。

審議会委員等への応募意志は、性別では男性の方が多く、年代では60歳代が最も多くなっている。応募しない理由としては「自信がない」が最も多く、10歳代と女性の場合に顕著である。なお、20歳代から50歳代までについては「仕事が忙しい」が比較的多くなっている。

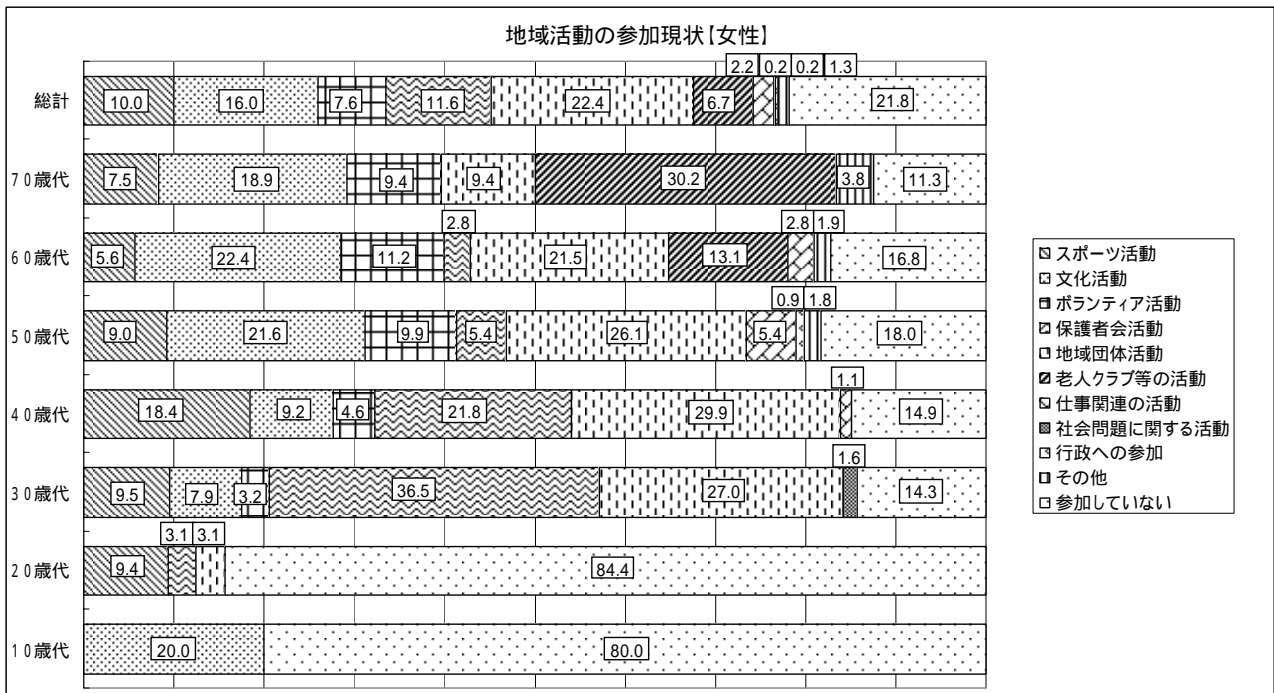
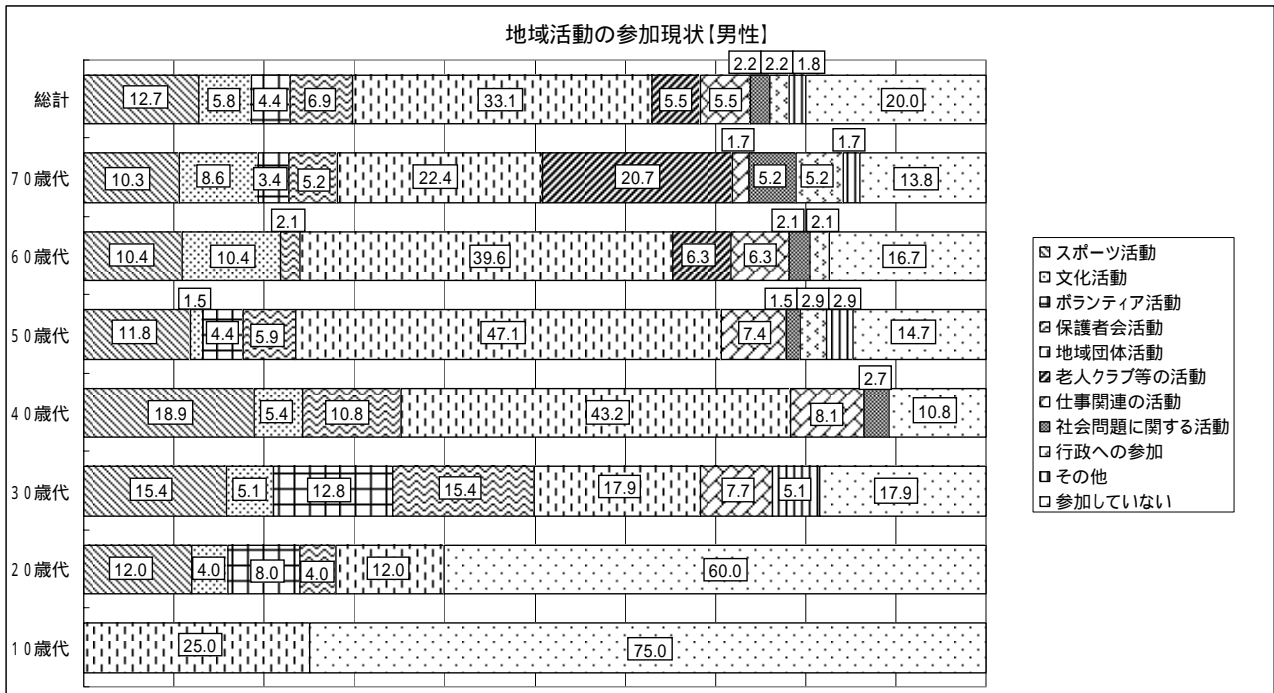
【問19】現在地域でどのような活動に参加しているかの質問

全体的に「自治会、町内会などの地域団体の活動」が多くなっている。

また、男女共「10歳代・20歳代」では、「参加していない」が一番多く、「30歳代」からは「自治会、町内会などの地域団体の活動」が多くなっている。

女性のみで見ると、「30歳代・40歳代」が「子どもを通した保護者会活動」が高い割合となっている。また、「50歳代・60歳代・70歳代」では「趣味・学習などを通したサークルや文化活動」が高い割合となっている。

職業別で見ると、男性は「学生・無職」以外は「自治会、町内会などの地域団体の活動」が一番多いのに対し、女性は「パート・アルバイト（非常勤職員を含む）・専業主婦（夫）」のみ高い割合となっている。

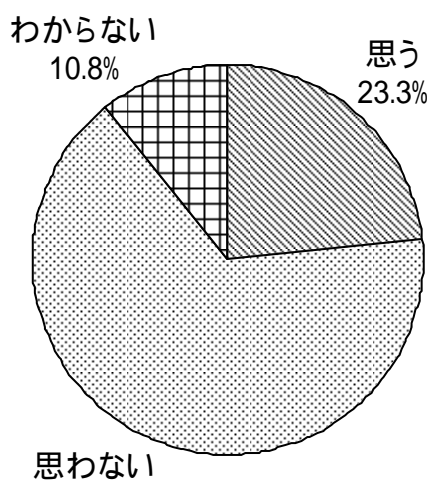


【問 2 0】地域で行われる行事や活動などについての質問

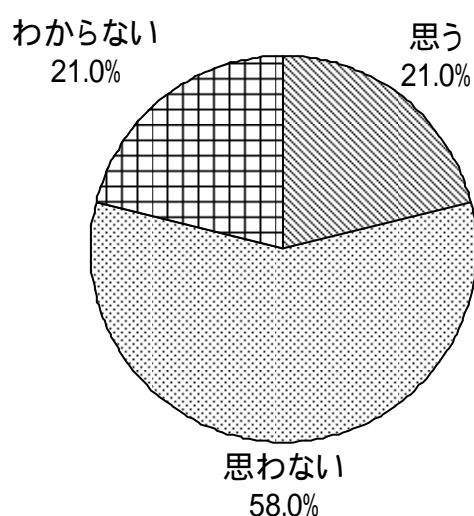
ア 自治会長など地域の組織の会長は男性で、女性は副会長をやったほうがよい

最も多いのは男女共に、「思わない」が高い割合となっている。男女で比較してみると、男性が65.9%、女性が58.0%となっており、女性の方が7.9ポイント低い割合になっている。また、「わからない」の項目については、男性が10.8%、女性が21.0%と女性の方が10.2ポイント高い割合になっている。

地域組織について【男性】



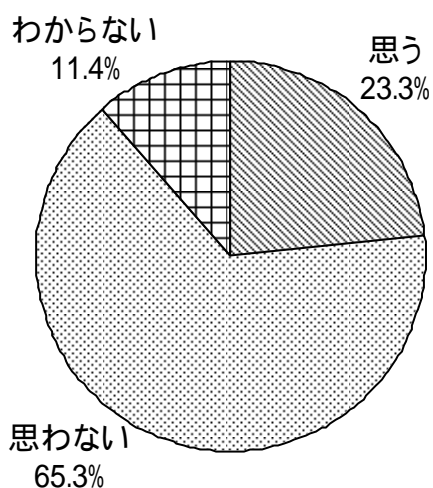
地域組織について【女性】



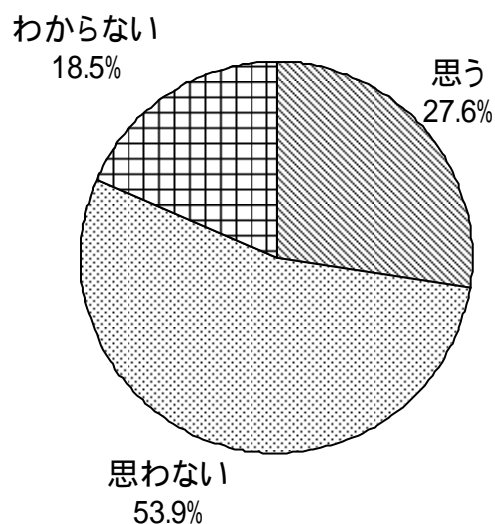
イ 班長などの仕事を実際に妻がしていても名前は夫とするのがよい

「思う」の割合は、男性が23.3%、女性が27.6%と女性の方が4.3ポイント高い割合になっている。また、「思わない」は男女共に一番多く、男性が65.3%、女性が53.9%となっており、男性の方が11.4ポイント高い割合になっている。

班長などの名義について【男性】



班長などの名義について【女性】

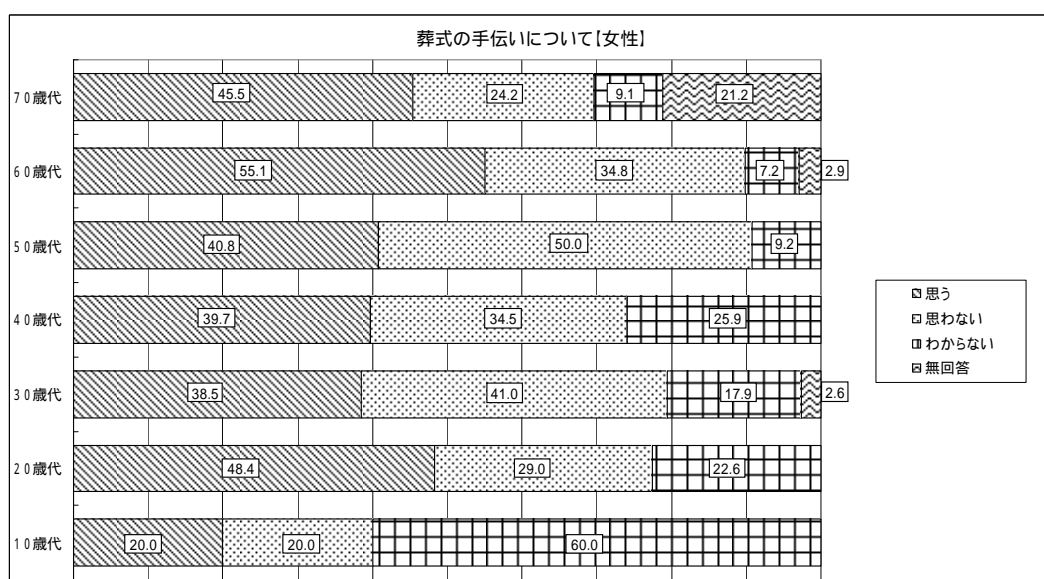
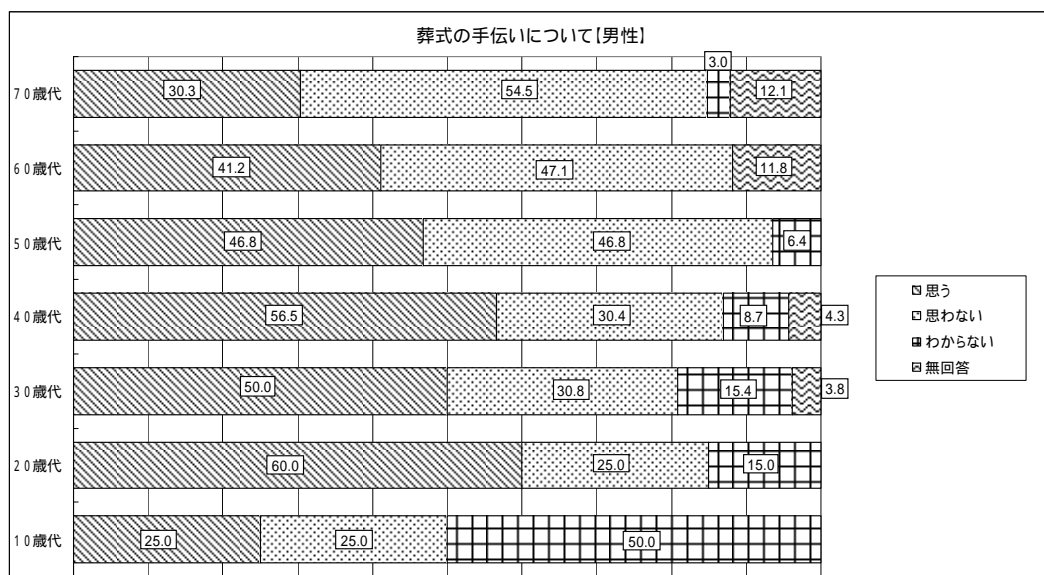


ウ 葬式の手伝いの仕事分担は「男は帳場女は台所」を手伝うのがよい

男女共に「思う」が多くなっているが、「10歳代」のみわからないが一番多くなっている。

男性の年代別でみると「20歳代から50歳代」では「思う」が一番高い割合になり、「50歳代から70歳代」では「思わない」の割合が高くなっている。

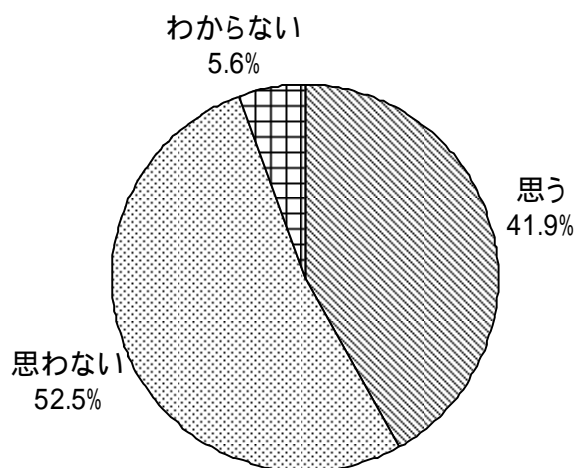
女性だけでみてみると、「20歳代・40歳代・60歳代・70歳代」では、「思う」の割合が高くなっており、「30歳代・50歳代」では「思わない」の割合が高くなっている。年代ごとにばらつきがみられる。



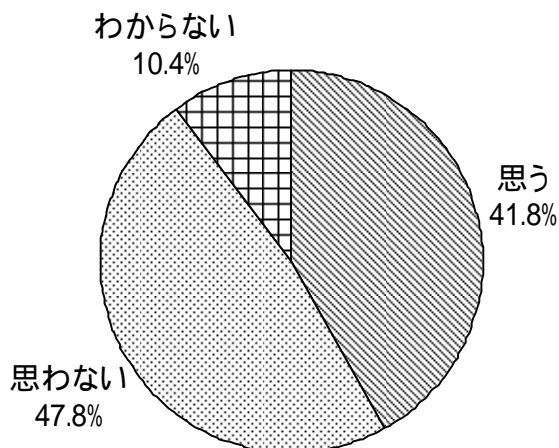
エ 葬式の喪主や結婚式・葬式での挨拶は男性がすべきである

最も多いのは男女共、「思わない」で、45%を超えている。男性が52.5%、女性が47.8%と、男性の方が4.7ポイント高くなっている。

葬式のあいさつについて【男性】



葬式のあいさつについて【女性】

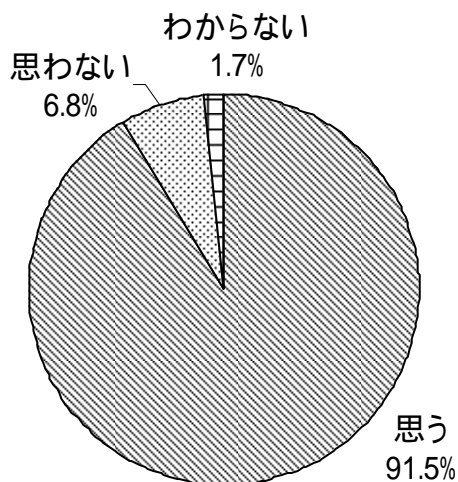


オ 地域づくりやまちおこし、防災計画

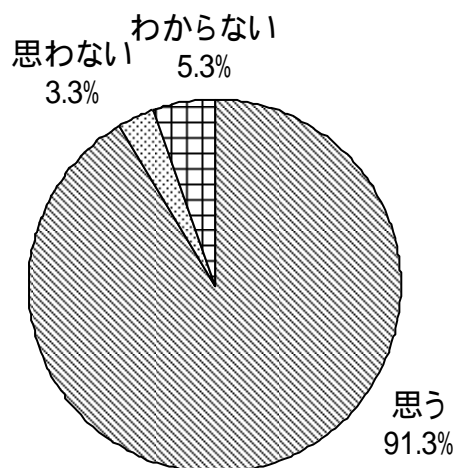
画には男女の意見を取り入れるべきである

男女共に「思う」が全体の9割を占め、ほかの項目より高い割合になっている。「思わない」については、男性が6.8%、女性が3.3%となっており、男性が3.5ポイント高い割合になっている。

計画作成に男女の意見を取り入れるべき【男性】



計画作成に男女の意見を取り入れるべき【女性】



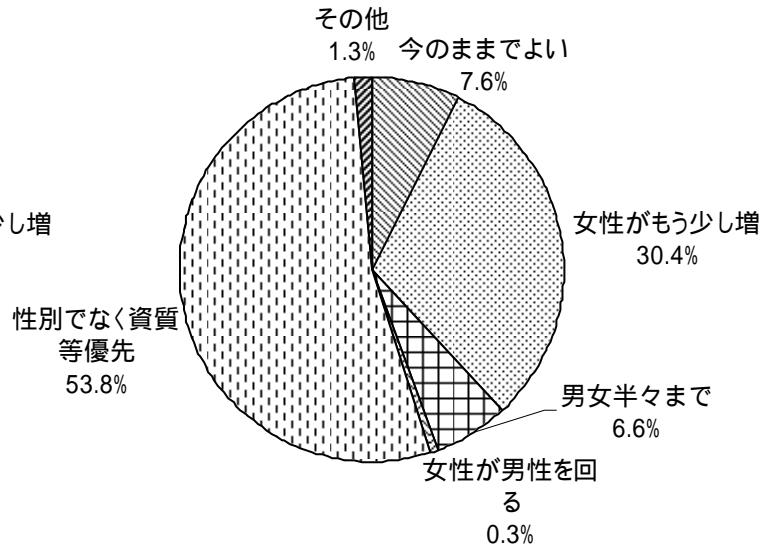
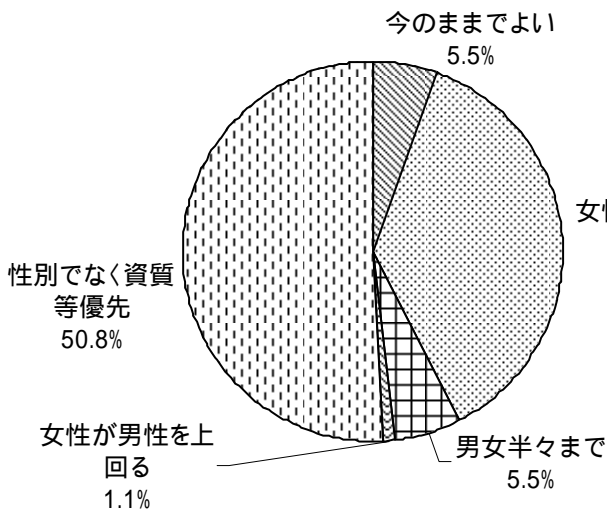
【問 2 1】女性の政治や行政への参加について

ア 市議会議員の女性の割合

男女共最も多いのは「性別よりも資質・人柄を優先した方がよい」になっており、次いで「女性がもう少し増えた方がよい」となっている。男性の「女性がもう少し増えた方がよい」が37.2%に対して、女性は30.4%と6.8ポイント低い割合になっている。

市議会議員の女性比率について【男性】

市議会議員の女性比率について【女性】

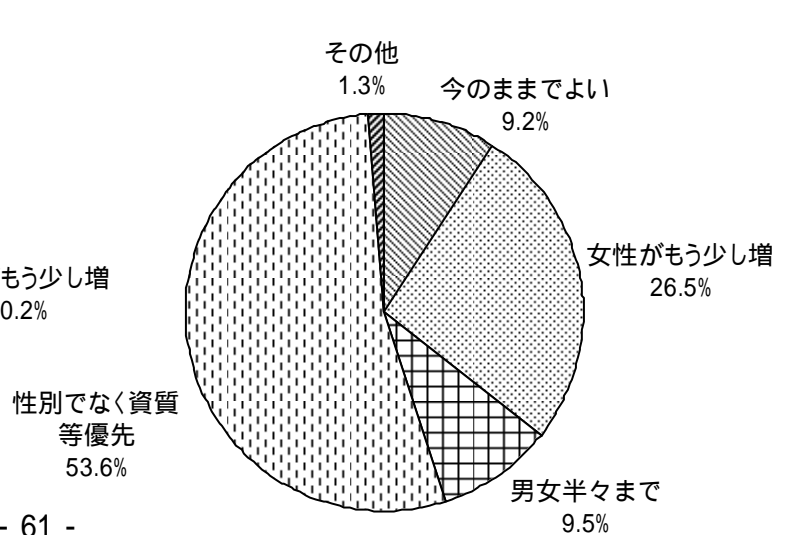
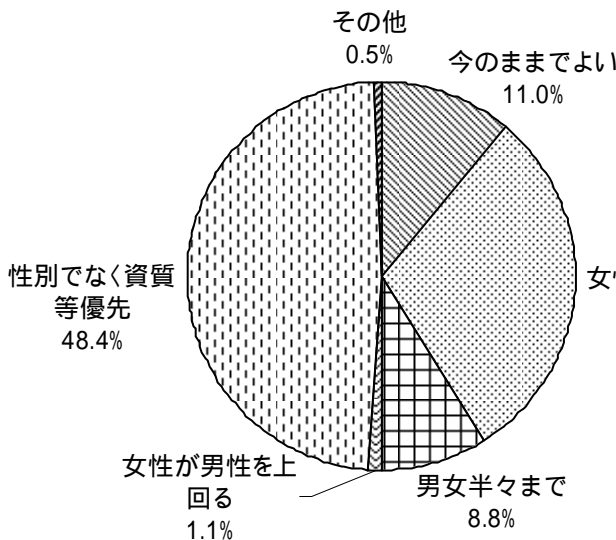


イ 審議会委員の女性の割合

市議会議員の場合と同じで、「性別よりも資質・人柄を優先した方がよい」が5割を占める割合となっている。次いで「女性がもう少し増えた方がよい」が多くなっている点も同じとなっている。

審議会委員の女性比率について【男性】

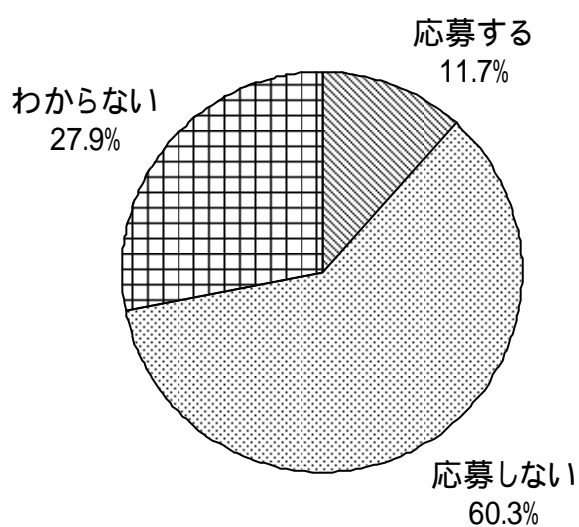
審議会委員の女性比率について【女性】



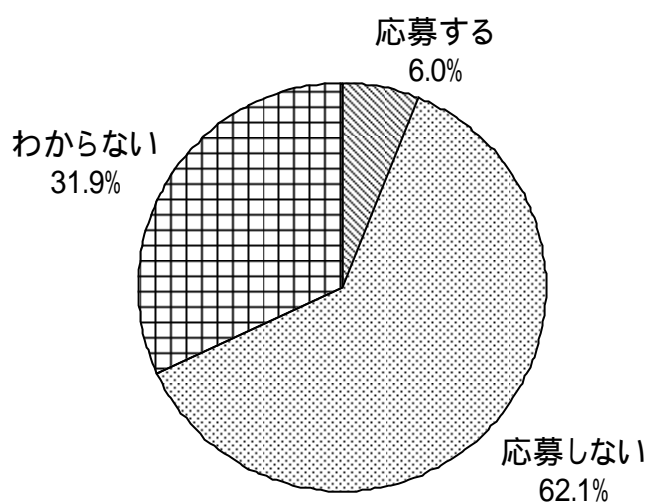
【問 2 2】 審議会委員等の公募に応募しますかという質問

男女共「応募しない」が一番高い割合となっている。「わからない」の割合も全体の3割ほどとなっている。「応募する」の項目については、男性が11.7%であるのに対し、女性は6.0%と5.7ポイント低い割合になっている。

公募に対する応募意志について【男性】



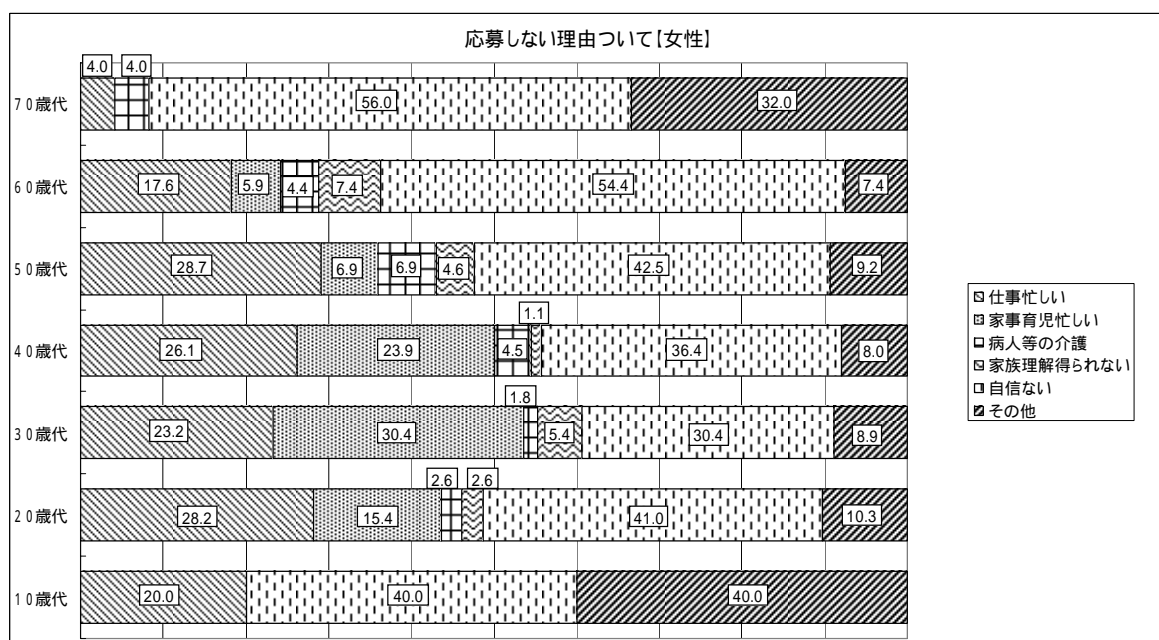
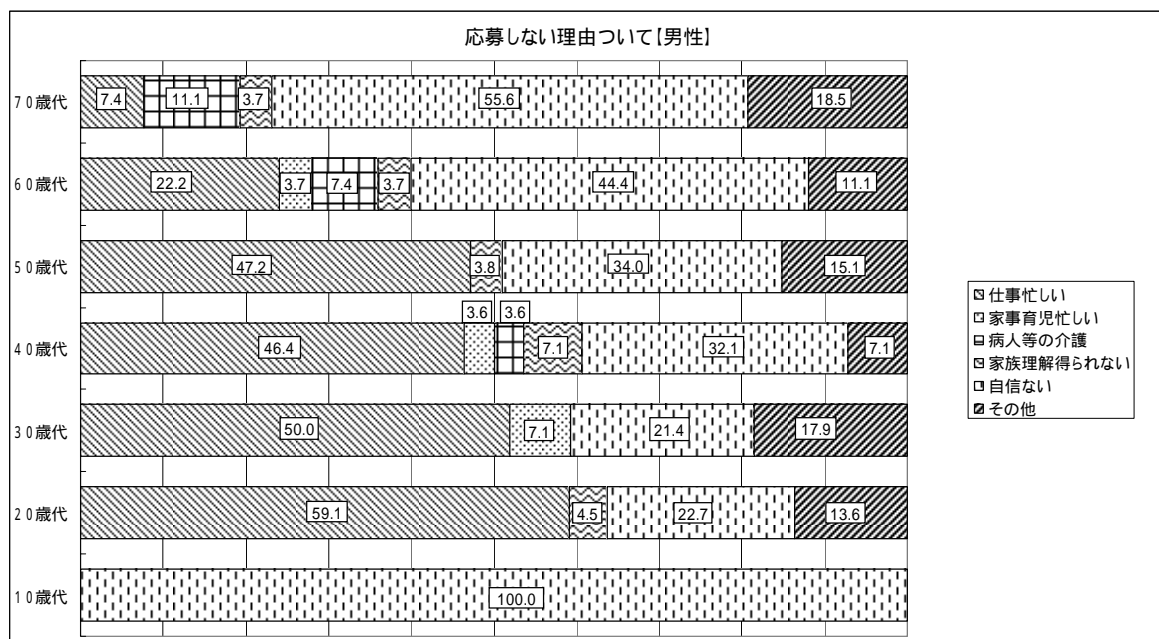
公募に対する応募意志について【女性】



【問23】「応募しない」と回答した人にその理由を尋ねた質問

男性の「20歳代から50歳代」では、「仕事が忙しい」が一番多く、「10歳代・60歳代・70歳代」では、「自信がない」となっている。

女性の場合は「自信がない」が最も多く、次いで「仕事が忙しい」となっている。「30歳代」については、「家事・育児が忙しい」が「仕事が忙しい」と同等となっている。



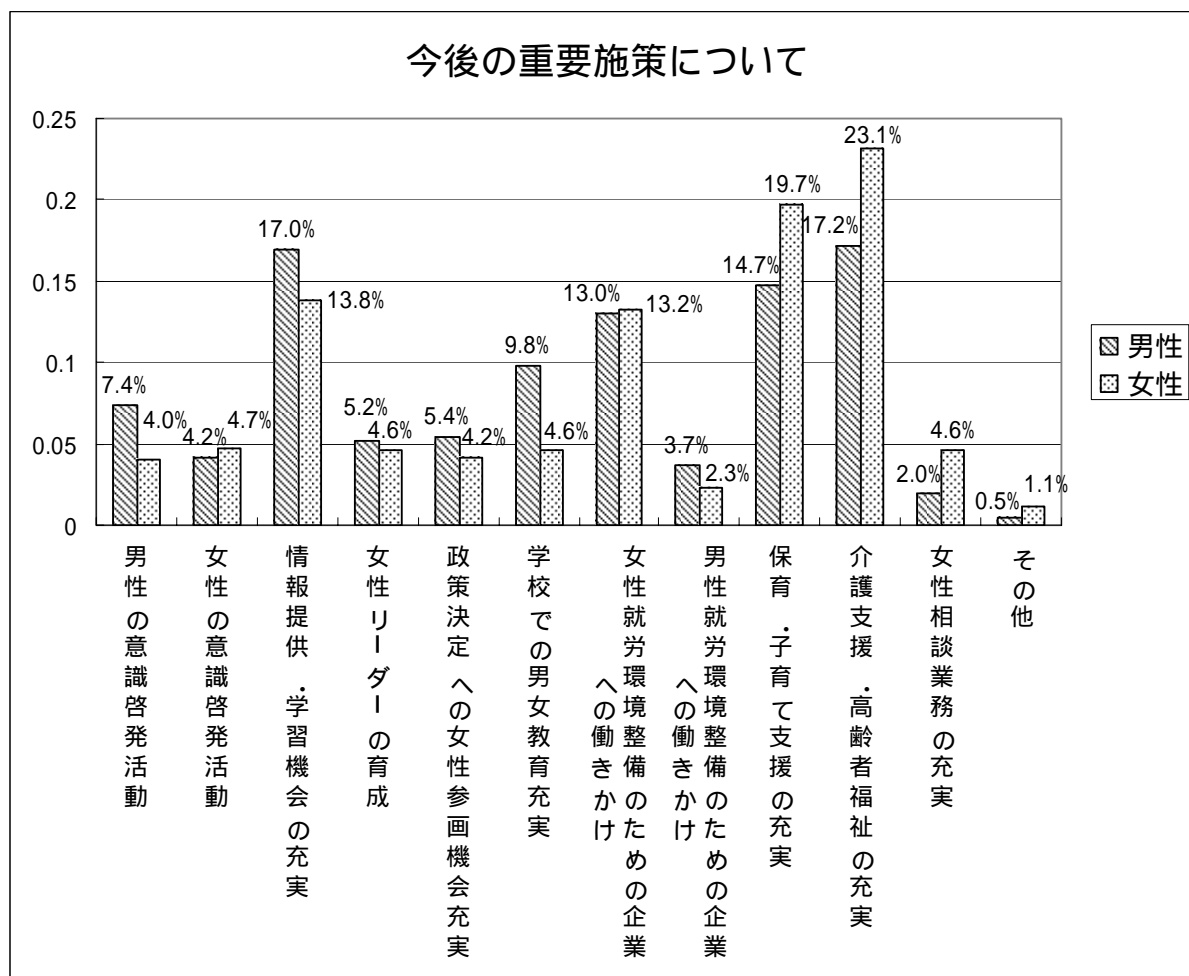
8 . 今後取り組むべきことについての質問

「介護支援・高齢者福祉の充実」が最も多いが、「保育・子育て支援の充実」「情報提供・学習機会の充実」「女性就労環境整備のための企業への働きかけ」も比較的多い。20歳代から40歳代では「保育・子育て支援の充実」、50歳代では「情報提供・学習機会の充実」、60歳代では「介護支援・高齢者福祉の充実」が多く、割と年代別の特徴が表れている。

【問24】行政の取り組みとして重要な施策について

男女共に「介護支援・高齢者福祉施策に充実」の割合が多くなっている。男性では、「男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実」が17.0%で、「介護支援・高齢者福祉施策の充実」の17.2%とほぼ同じ割合になり、次いで「保育・子育て支援の充実」が14.7%となっている。

女性では、「保育・子育て支援の充実」が19.7%が、「介護支援・高齢者福祉施策の充実」の23.1%の次に多くなっている。次いで、「男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実」が13.8%となっている。男女で、意識の差がみられる。



9 . 自由な意見、要望

男女共同参画社会に対する賛成意見が多くあった一方、用語が難しく、啓発をもっとすると良いという意見が多くあった。男女共同参画社会を推進する上で、慣習意識の改革、子育て支援などによる女性の働きやすい環境づくりを求める意見が多くあった。しかし、慣習意識は世代交代と共に変わっていくから良いとする意見や男女平等が少子化につながることを危惧する意見もあった。

《男女共同参画社会に関すること》

原文をそのまま掲載

男女共同参画が平等といっても、男の本質、女の本質、例えば、体力的に男は女に勝り、社会・家族に対する細やかな心遣い、出産、子育ては女しかできないと思う。両方の質を活かした男女共同参画であってほしい。

(女、70歳代)

わかり合える家族づくりを大切に。基本姿勢。核家族化が多くなり若者、高齢者と別れのかまえをしている家庭が多くなってきて淋しい限りですね。男女共同参画は結構な課題ですけれど。人それぞれ、育つ環境、性格、前向きな姿勢のあるなし、いろいろ難しいことですね。私は歳を重ねても昔から前向き実践してから論ずる構えをしておりますので、理論より実践できる自分づくり個人が目指すことが大切かと思えます。実践することは容易ではありません。内容はどうあれ目指す目標を実践継続すれば必ず実ることは確実です。そしてまわりから信頼されることも多いと思えます。論じて実践をはじめ間をみては実践に対する反省を必ずして、目標をふくらませたり改善したり繰り返す中で少しずつ手元がみえて来ることも事実です。とにかく実践継続できる自分作りを大切にしながらグループと組み合わせ協力して1つ1つ確実な状態へすすめていけたらいいですね。夫婦、そして家族へと広げていけたらいいね。日々の生活の中で家族が1つの問いに対してどれだけ語り合え理解しあえるかということですよ。私どもは老夫婦毎日会話をし、若者たち親子の様子をみながら語り合ったり、間をみて若者に話してみたりの声かけを心がけています。(女、70歳代)

男性の良いところ男性しかできない事、女性の良いところ女性しかできない事など個人ごとにもあると思えます。そういう所を、お互いに認め尊重しあっていくなれば男女が共に参加しあう、良い社会が築かれるのではな

いかと思います。男女共同参画という事を、行政の方からも、もっとPR研修をすることも大切かと思っています。(女、50歳代)

男の特性・女性の性格等生かし、いかに平等にするかが課題である。例えば、女性でタイヤ交換や力仕事はできない。男性は機械的にも強く力もある。等(男、50歳代)

子育てにしる、介護にしる、国としてもっと予算をかけてどうしたら男女共に仕事を持ち、充実した人生を歩みつつ、子供を育てていけるのかということを実際に現実していかないと、口先だけのことで今までの状況がなかなか変わって行かず、そのしわよせが子供にいてしまうと思う。テレビで以前見たのですが、スウェーデンかフィンランドだったかと思いますが、仕事も家事も子育てもすべて平等な社会の実現を将来的には望みます。(女、40歳代)

男女が平等に扱われることは当然であるけれども、昨今は欧米と同様、個人主義台頭により、個人の権利が何より優先され、地域社会は益々高齢化により、大切な地域の絆が失せていく。男女共同参画も大切であるが自分たちの身近からまず人間として、日本人としてその前に反省し、素直な心を育てるべきである。今の私たちは先人にもっと学ぶべきである。自己責任と同等に扱うべきである。(女、50歳代)

男性も女性も差別なく扱われる社会になるようにしなければならないと思う。そのためには、まず世の中が変わらなければそれは実現できないと思います。(男、10歳代)

職場という小さな社会では(私の勤務する会社では)男女の性別による格差はほとんどといていいぐらいありません。男女共同参画のシステムでなければ企業は発展しません。発展させようとすると自然体でそのような状態となると感じます。家庭においても家族が幸せと感じるときは夫婦共に協力し合っこの家庭を築いたんだなと振り返り感じたときと考えます。子供たちも「将来自分たちもこういう幸せな家庭をつくらなあかなあ」と言ってくれたときの幸せを感じた時の幸せ感。なぜ、男女が共同参画をすることによって自分のまわりが社会がどう発展していくのかわからなければ、言葉だけで終わってしまいます。これからの社会はアメリカ型でもヨーロッパ型でもない、日本型のすばらしい社会を世の中が作っていかなければならないと思います。家庭から社会から地域からではなく社会全体同歩調で進まなければならないと思います。自然にできてくる共同参画がこれからの日本には必要であると思います。これが日本型と思います。

(男、40歳代)

岐阜県はまれにみる女子大、女子短大の多い県ですが、山県市には大学もなく男女共同参画思想も遅れている市とってよい。このまま放置すると優秀な人々特に女性の流出が激しくなり、人口減少をおこすでしょう。例えば中央で活躍している信田さちるさんは高富の出身。その他優秀な人が多い。男女共同社会先進市として北欧がとりいれているようなクオータ方式を取り入れてはどうか提案します。1990年代から大学への進学率も女性が多く、海外で活躍する人も女性が多く、最近ではオリンピックでの活躍も女性が多い。又、平均寿命も長い。20年後とは、女性の活躍する割合は半数となるとの予測もあるが、今必要なことは本市が積極的に時代を先取りして各種委員会議会等の女性割合を人口比にする。つまり、50%とすることをすすめることです。30%とすることは国県、他の市も実行していますがこれは当然進められます。これをクオータ方式と呼ばれていますが、これを打ち出して家庭でも、学校でも地域社会でも討論し、応援することです。目標をたてそれに向けてのあるべき姿をそれぞれの地域で討論してゆくことが大切です。(男、70歳代)

男女共同参画に関しては同感するが、その中の意味で同権ではあるが、同質ではないということをおぼろげに忘れているだろうか？異質なのだからそれを同質と考えるという発想があれば頭をかしげます。(男、50歳代)

男女共同は理想ではあると思います。男性がむいているところもあり、女性でしかできないところもたくさんあります。男女平等のお給料をもらっているのは公務員だけではないのでしょうか？他のところではまだまだ男性の方が多く、認められていると思います。女性がリーダーになっているところもあるようですが、ヒステリックだったり、生理がきて体調をくずしたり・・・がんばれる人はがんばればよいと思うし、男性をたてつつ女性がサポートして、くらししていけばいいのではないのでしょうか？

(女、30歳代)

男女共同参画は賛成です。もっと女性が出てきてもいいと思いますが、最近では女性が優遇だと日々思います。テレビ1つ見ても男性が恣意的に攻撃的で、女性が擁護的で社会的に男性が悪者に思っている毒に思う。日常生活でも女性は「女性の皆さんは元気があって」「最近の男は軟弱で」などと、女媚の話を聞きます。男性は「おい」「お前」「こいつ」「呼び捨て(苗字)」なのに、女性は「あなた」「きみ」「～ちゃん」「～さん」になっている。仕事の面でも、重労働の男性が苦勞するのが当たり前で、女性は決して汚れない作業に従事しているのが現実。看護師さんも男女半々にしたら

いいと思う。女性患者も男性患者にしてもらっても良いと思う。本当の男女共同参画とは、このことも十分わかってほしい。土木作業でも深夜のコンビニにでも、清掃作業もトラックの長距離運送も、自衛隊も女性に出てきてもらいたい。しかし、現実には女性が好まないものには、目もくれず男性の苦労の上に成り立っているのだと考えます。自分は彼女もいて将来は結婚すると思いますが、自分の理想は、女性社会進出は悪ではない、むしろ男性も女性は職場に咲く美しい花のような存在。しかし、社会という荒波に巻き込まれることを歓迎できない。早く結婚してもらって夫に守られながら家庭で美しい花を咲かせてもらいたいと願っている。(男、20歳代)

40歳になるまで、仕事を続け会社勤めの中で「男っていいよ」と思いつつ、不平等を余儀なくされてきました。(勤務できたことだけでも、いささかの平等らしい恩恵に属してこられたのかもしれませんが・・・)男女平等とか男女共同参画が呼ばれて久しく男女いずれにも意欲が向上し、徐々にではありますが、その差のよくなりつつあることは歓迎されるべきことと思います。が、いざ自らがその共同参画にかかわる場に入るとなると長年の悲しい性ですんなりと溶け込めるかどうか一抹の不安があります。今の若者たちはいざ知らず、私たちの世代いや、私は「夫唱婦随」とか「女は男をたてて」と、それを美德とされた生き方がしみこんでいて、すぐには軌道修正できない感覚があります。一種の気後れかもしれませんが、だから、少しずつ少しずつ一步一步自ら意識改革に努めつつ、男女共同参画の流れに今流していけたらいいなと思っています。最初の一步としても勇気が要するようになります。どうぞ、後押しをよろしくお願いします。

(女、60歳代)

男女共同参画は・・・理想ではあるけれど今の自分の立場から見ると程遠いことのように感じます。家庭内においても職場においても役割が決められてしまっていて平等に・・・というのは無理。扱われ方からして違いますし。参画できたとしても、男・女の差は出来てしまって等しく利益を受けることも出来ない状態になるのではないのでしょうか。(不満ばかり言わずいけません)家庭を持ってしまおうと男女の地位は決まってしまう。子供が出来れば女性は自由がきかなくなります。このような状況で共同参画でなくなってしまう差が出来ると感じます。子供たちの世代で今やっと男女の差をなくす事が出来る状況になってきたのかなっと感じます。

(女、40歳代)

大人になってしまった人に心や考えを変えることは、難しいことだと思います。それはもう男、女として生まれたときから決まってしまう日

本的な考えが元にあるからです。親から子、子から孫へと続いています。昭和生まれの人がいなくなるころやっと男女の境がなくなるかもしれませんが。子供ができると女性は、働く事が大変です。先生方は3年休んでも復職できると聞きました。それを他の会社に勤めていてもできるようにする。夫婦の場合、男性の残業の多さこれも問題かと思います。もっと会社は、雇用を増やし、一人の仕事量を減らしてほしいです。子供が病気になっても、サポートしてもらえるところを作る、介護に関しても同じです。もっと国は法律を整備してやっていかないと日本は駄目になると思います。男女共同参画自体も知名度が低いのもっとアピールしていくべきだと思います。(女、40歳代)

女性の権利、地位の向上にばかり目が向けられ男女同権であることが忘れられている。(男、30歳代)

男女平等、男女共同参画は理想だが男女平等が少子化になる。
(男、50歳代)

男女共同参画と言う事がいまいちよくわからない。家庭生活については、個々の考え方にすごく差があると思います。先日もテレビ番組で子育てについての考え方も男女の差等いろいろ。今は子育てをしてないので、全然分からないけれど、昔より男性の協力をする人が増えてきたと思うけれど、昔ながらの考え方をする人も多いと思います。表紙に書いてある「男女共同参画とは」を何度読んでも、難しいです。子供のころからの教育で育てこないと、「社会の対等な一員」として生きていくのは難しそうです。
(女、50歳代)

男女共同参画という言葉は、一般的には難しすぎる言い方だと思う。知らない人も多いのでは？また、改めてこう言わなければならない社会のあり方はある種の傲慢と思う。全ての分野に対等に・・・というより各自の責任で行うことに等しく利益を受けることはあり得ないのでは？
(女、50歳代)

《子育てに関する事》

子供を産んでも働きやすい環境を作って下さい。子供ができたら預かってくれるところがないので仕事を辞めなければいけなくなります。でも仕事は辞めたくないのです子供がつかれませぬ。こういう状況の人もいるので少子化が進むんだと思います。(女、20歳代)

女性が働く事は良い事だと思いますが、出産後に働く人の多くは、経済的な問題が大きいと思う。子供の事を考えたら、できればずっと母親・父親と長い間一緒に過ごし、できるかぎりの愛情を注いであげべきだと思う。愛情をたくさん与えられて育った人は、そんなに悪い事もしないだろうし、自分の子にも愛情を持って接することができると思う。だから、そのためにも、一番お金がかかる子育ての時期に、女性が働かなくてもいいような、支援や対策があるといいと思う。子供のために働いているはずなのに、子供にとって本当に大切なことをしてあげられているのかわからない。

(女、20歳代)

若いときにナースとして働いていた時は、女の職場でしたが、院長の希望として良き嫁となるように、茶道・洋和裁・華道のいずれかの好む物を2つ選んで励むこと、そしてすれ違う時は会釈を行う、看護をしている者は何時でも笑顔を忘れずに等恵まれた環境の中で勤務をし結婚。長男が生まれ仕事に復帰したが、小児喘息になり「他人の面倒を見て、自分の子供を見放すのか」と親に言われて、仕事を辞めました。次男が生まれ、子供が留守番が出来るようになってから、近所の日本警備保障の事務員に、男ばかりの世界でしたが皆様が子育て中の人たちばかりで理解があり、学校の参観日も委員会活動も参加してくださいとの社長の言葉。本当にこの「男女共同参画」のアンケートにぴったりの職場に働いていたのです。あれから20年やっと岐阜でもこの環境が作られようとしています。山県市となり、少子化の大事な歯止めになる子育ての支援を、仕事に復帰した時の子供の支援・保育園の保育時間の支援・学校に行くようになれば参観、学級委員会、PTA、町内の役員等といろいろな問題があります。私は、現在長男、次男の嫁が仕事を続けたいとの申し入れの為に仕事を第2として、孫の為に子守をしています。嫁は仕事に復帰して明るく、元気に「いってきます」と職場に出掛けて行きます。児童館も利用して助かっています。祖父母として、今留守番をして孫の成長を見守り、シルバースポーツを楽しみながら若い夫婦の手助けをしています。「山県市は子供を5・6人生んでも、しっかりと支援してくれる制度がありますよ」と他県に大きな声で言うように、行政の方々に託します。(女、50歳代)

《意識改革について》

男女は同じ人間。平等であるべきですが、昔からの男尊女卑の考え方、家長制度など古い考え方が今もあるのは現実です。意識の改革はなかなか難しいものです。若い世代の方には、おおいに「男女平等参画」実現の為に、

教育、指導を行ってほしいものです。男、女と分けることなく、人としてお互いが尊重される間柄でいられるといいものです。(女、40歳代)

田舎は、特に男性優先の社会だ。みな意識改革が必要だと思う。育児にしても介護にしても、女性が全部してあたりまえの風潮がある。
(女、50歳代)

男女共同参画には賛成。しかしながら、職場では残業、仕事のレベル、責任等自分は女性だから男性が頑張れば良いという女性の意識がある事も事実であり、世の中の意識は近々大幅に改善したがまだまだ時間を要するテーマと思われる。(男、40歳代)

性個人の性格によると思いますが、助け合いが大切。その為に男性の考え方を変える必要あり。(女、50歳代)

子を持つ女性が働く事が困難な現状が社会全体で変わらなければ少子化問題は解決されないように思います。子を持つと支出がかさみ必然的に妻は働く事を考えるのですが現状は保育園は満員で入れなかつたりで、とても悪循環な世の中なのです。例えば、男性の育児休暇を年単位で取る事が当たり前になったり、男性が学校行事や社会行事に参加する事を企業の中で当たり前意識になればずいぶん女性が楽にもなれ、男性の子育てに対する熱意も変わってくると思います。理想を現実に変えていくのは決して難しいことではないはずですが、人の意識がまだまだ戦前の古くさい考えだから変えられないのです。私は次世代の政治家や企業家ならこういう柔軟な考えを受け入れてくれると期待していますが、今の世代のトップでは頭が固すぎて期待できません。余談ですが・・・(女、30歳代)

女性は子供を産むことは変わりありません。(男性は産めません。) 生まれなければ、日本人は減少する。 男性と女性の役割は違う。 必要な教育を行い、男性女性とも思考レベルをアップする。(男、50歳代)

男女別姓を可とする国の取組みも進んでいないなど家の代表は男性とする傾向が強く、自治会やスポーツ行事でも男女が別々の分担で動いている。これらのことをふまえて男女とも意識啓発の活動をより推進することが重要である。子育て支援の活動を教育委員会で考えるなど幼小連携の研究、小中、中高の連携を研究する活動を進める。山県市の独自色をもっと出してほしい。(男、60歳代)

「昔から」という事があり、男の人が決めたり行動したりしています。男

女共同参画といってもすぐにできることではないと思いますが、お年寄りの方の考え方が変われば、変わると思います。(女、30歳代)

以前、朝日新聞の記事で大変共感することがありました。それは、「田舎ほど男尊女卑が激しい」というものです。私はこの土地に嫁ですから身にしみて感じています。年配の方の意識改革がまず必要だと思います。(女、30歳代)

地域の行事に参加しても、男の意見がとおり女はこの次になる傾向がある。(最近の行事では、お祭りなどがあった。)(女、20歳代)

女性がすべて社会的に認められたいわけではないと思うので男性優位をよしとする人もいると思う。特に行政などに関しては、女性も平等にというよりは、より良い意見や活動を積極的に行える人を選ぶべきではないでしょうか。そういう女性が社会に出るのを支援するのは大切なことだと思う。(女、20歳代)

《アンケートについて》

高校を卒業したばかりで、社会の現状を身をもって体験していないので、質問の内容がよくわからないし、答えにくいです。はっきりいって、社会を知らない者に対してこのようなアンケートを実施しても意味がないし、正確な結果は出ないと思う。(女、10歳代)

男性女性にこだわらず、アンケートをとってほしい。これは女性用のアンケートで回答しにくい。(男、50歳代)

このアンケートを必ず有効に活用してください(アンケートだけに終わらず)(男、20歳代)

回答がとても選びにくかった。もう少し回答、質問を考えたほうが良い。(女、50歳代)

《その他》

男女共同参画とは、男女平等ではないですね？男性にはしょせん勝目はないと思います。男性より上に行くことはないと思います。だから、女性

にしかできない事、女性の方が向いていると思う事そんな思いでいろんな事に挑戦すればいいと思う。(女、60歳代)

男女平等で社会の一員として、色々な分野にて活動に参画することはおおいに結構ではあるが、持って生まれた男性には男の機能が、女性には女の機能がそなわっている様に全てが対等にとは考えにくいのではないか。男女共任務についての責任を負うのは当然のこと適材適所これも忘れてはならない必要な要素ではないだろうか・・・と一市民ふっと思います。
(女、60歳代)

女性の意見は、生活に密着した意見を聞く事ができるので多く取り入れる機会を持ってほしい。介護については、個人でみるシステムにするのではなく、多くの人がかかわってみれるように行政からシステムを変えるようにしてもらえれば、老後は少し安心できるかと思います。(女、40歳代)

子育て支援と高齢者福祉がいい形でつながれば良いと考える。
(女、40歳代)

問題の作成にもう少し検討してください。地域参加にしても、女性が会長をやるためには、それなりに家族の協力や理解が必要であり、いろいろな活動で男性にやってもらうのは、家事と仕事にと今のままでは、子供の子育てなどでそれ以上のことはできないです。それがないかぎりは無理です。
(女、40歳代)

男女は共に平等でなければいけないと思いますが、男女雇用機会均等法により、晩婚化、少子化が進んだと思います。女性が外に出ることにより、今までの家庭生活が成り立っていないような・・・。いい面と悪い面があるということです。遊ぶ所、誘惑が多くて少子化を進めている気がするのであまり作らない方がいい。(女、20歳代)

男女雇用機会均等法、母子保健法など制度が確立してきている中で、山口市がどのように地域に対しフォローしているか、どのような活動をしているのかわかりません。地域で、男性女性が参加できるような活動、岐阜市では子供をもつ母親、両親のサークルがあるようですが、山口市では、あるのでしょうか？広報など、若い世代にも読んでもらえるようなものもあっていいと思うので、情報公開していただきたいと思います。(女、50歳代)

現在もまだまだ男社会です。(女、60歳代)

女性が中心となって市のイベント行事や女性の目から見た街づくり運動を展開してはどうか？（男、30歳代）

意見要望とは異なるが、我が家では男5人、女2人家庭であるので、男、女、子供も差別なくみんなで協力して、家事、農業、炊事など分担してやっている。（女、70歳代）

女性の働く職場の上司には、将来の日本を支える子供たちのことも考えられる心の広さが必要。いじめや損得の計算があってはならない。市役所は市民の負担も考えてほしい。このアンケートの結果は活かしてほしい。（男、50歳代）

市議会議員の定員が多すぎる。又、女性議員をもっと（半分）多くすべきだが、自治会が「男」中心の為女性の意見を言う場が無い。新しくその自治会に入っても、古い人たちの意見が中心で、新しい人が意見を言うとき白い目で見られる。（女、60歳代）

前の職業とか、家がお金持ちだから、地位とかで役を選ばないでほしい。本当にその立場になって考えられる人、働ける人を選考してほしいと思います。考えが古いかもしれませんが、やはり女性は家を守る事、子育ては第一に考えてやるべきだと思います。その中で家族全員が話し合いそれぞれの仕事は、その人に合った事をすればよいと思います。皆で協力すればよいかと私は考えます。男の人より女はひかえる事も時には必要かな。ただ男でも女でも出来る事はどちらでもよいと考えます。やはり人柄優先かと思います。（女、50歳代）

市関連の諸組織には長年男性がかかわっている現実が多いように思う。もっと若手を発掘し起用するようになっていかないとマンネリ化してしまう。しきたりにしても、方法にしても内容にしてもアイデアが乏しいように思う。女性の中からもっと有能な方を発掘し、いろんな組織のリーダーとして活躍してもらおうようにすることが大切。市になって3年目。すばらしいビジョンをもって大改革をしてほしい。（男、70歳代）

有能な女性が多数家庭に埋もれている現状です。女性にもいろんな場で活躍できるように行政の方でリーダーシップをとり、軌道に乗せてほしい。一つ気をつけてほしいこと。何かの委員などを選ぶとき、サークルとか何かで目立つ女性とか、議員、市役所の知り合いとか容易な決め方をしないで、市民公募を含め納得のいく決定をしてほしいと思います。（女、60歳代）

国県市の行政指導の結果があり、大幅な女性の進出、部落の行事等に出てきましたが、まだまだという感じです。佐賀区でも地区の役員を家順で6年ほどで実施しても良いと思っていましたが、昨年不幸があり30家程で出席し、内20人女性で男性が少ない。特に主人が仕事の都合で出席できず、役員が女性ばかりとなりました。行事は無事終わりよかったです、今年から又選挙となり逆戻り反対意見を出しましたが、結局反対ということで駄目でした。男女共同参画時代を叫ばしてるのにとおもいましたが、駄目でした又長寿会でも昼食には女性がお茶当番？どうしたら良くなり平等になるのか家に帰ると女が強いけどね。教えて下さい。小さいおじいさん75歳公務員役所懐かしくなる。(男、70歳代)

子を産めないような人は別として、健康で子供を産み育てることが可能な環境にいるにもかかわらず、子供を産まず、職ももたないような専業主婦が税金も、年金も払わず、将来、年金をもらえるのはおかしいのではないか。子供を産み、仕事も持ち、社会に貢献している女性の税金をもっと優遇するべきではないのか。実際、専業主婦の出産率は、仕事をしている女性の出産率より低いというのは、専業主婦は社会問題に対する意識が低いのではないかと思う。(女、30歳代)

合併後施設が中心地に集まっていく傾向になり、遠隔地では生活しづらくなっていく。自力で運転して動けるうちはとりあえずはいいとしても直に生活しづらくなる。(女、20歳代)

高齢と病気のため家にて療養中(女、70歳代)

介護保険は払うばかりでなぜもらえないのか?(女、40歳代)

当地にも、シルバー社会が進展受け入れ社会又、活用社会への対応、特徴ある山県市へ、打ってもらいたい。特に中洞シルバー人材の育成社会参画が今日の課題としてとらえてもらいたい。(男、50歳代)

山県市はシルバー人材センターがとても力を入れておられ、仕事をたくさん紹介して下さってありがたいです。(女、60歳代)

関係ないですが、山県市役所の辺りにダイナムなんてつくるのではなくて、図書館などをつくって、生涯学習することを大切にしたい市にしたほうが、いいと思う。(女、20歳代)

高齢社会の時代が来ているけど、年齢にこだわらず健康で生き生きとして
いる人たちは何事にも常に前向きに参加して行動にうつして益々生き甲斐
を持てるまた自信を持てる社会に行きたい。70代だって80代もま
だまだ若さいっぱい。やる気の人多いと思う。(女、60歳代)

もうすぐ就職なので市の女性就職率をもっと増やしてほしい。就職がなけ
れば他県に行くつもり。(女、10歳代)

市職員の方の通勤にほとんどが車で通勤してみえると思うが車を止めてお
くのにすべて無料ですか。もし無料ということならば市民の税金の無駄遣
いだと思う。(職員だけが使用)駐車するには当然駐車料を払ってもら
うのが本当だと思う。駐車料を払うかわりに昇給するということは絶対許され
ない。現在駐車料を払ってもらっているということでしたら上記のことは
取り消してもらってよい。(男、60歳代)

よくわかりません。(女、50歳代)